

## 特集

3 現在と未来をつなぐ  
小学校教育

## 基調提案

- 4 社会の変化に応じ、学校の役割、求められる学力の見直しを  
全国連合小学校長会会長 向山行雄 / 全日本中学校長会会長 新藤久典

## 理論編

- 10 ① 公立小学校の役割 学びの基盤づくりを誠実に、家庭・地域と共に子どもを育む  
聖徳大大学院教職研究科教授 西村佐二
- 12 ② 学力 体験と言語を一体化した指導で、国際的に通用する力を付ける  
帝京大文学部教授/帝京大小学校校長 星野昌治
- 14 ③ 授業づくり 事実に基づく授業研究を通じ、考える力を育む授業づくりを  
国士館大体育学部教授 北俊夫
- 16 ④ 組織マネジメント 一人ひとりの教師の意識を高め、「協働する組織」をつくる  
千葉大教育学部教授 天笠茂
- 18 ⑤ 小・中学校の接続 小・中学校の円滑な接続を通じ、9年間で一定の力を育む  
白梅学園大子ども学部教授/白梅学園大大学院子ども学研究科研究科長 無藤隆

## 実践編

- 20 伝統を土台に、未来へ向けて  
活力ある学校づくりを  
東京都台東区立台東育英小学校校長 露木昌仙  
東京都中央区立泰明小学校校長 向山行雄  
大阪府大阪市立扇町小学校校長 加藤博之



## 連載

- 1 私を育てたあの時代、あの出会い

学ぶ楽しさを感じる授業の神髄を、恩師の授業に見て、学んだ  
北海道札幌市立新琴似小学校校長◎蔵本康彦

- 26 パワーアップ! 授業研究 新連載

教師全員が主体的にかかわる工夫  
神奈川県川崎市立橋小学校

- 28 つながる学校と家庭の学び

人と向き合う姿勢を育む「親子会議」  
茨城県小美玉市立堅倉小学校

- 32 読者のページ Reader's VIEW / 編集後記

東日本大震災の被災者の皆さまに、心からお見舞い申し上げます。 VIEW21編集部一同  
※今号では茨城県の学校の記事も掲載しております。

\*本文中のプロフィールはすべて  
取材時(2011年3月)のもので、  
また、敬称略とさせていただきます  
\*本誌記載の記事、写真の無断複写、  
複製及び転載を禁じます

<http://benesse.jp/berd/> 本誌記事は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトでもご覧いただけます

私を育てた  
あの時代、あの出会い

第5回

# 学ぶ楽しさを感じる授業の神髄を 恩師の授業に見て、学んだ

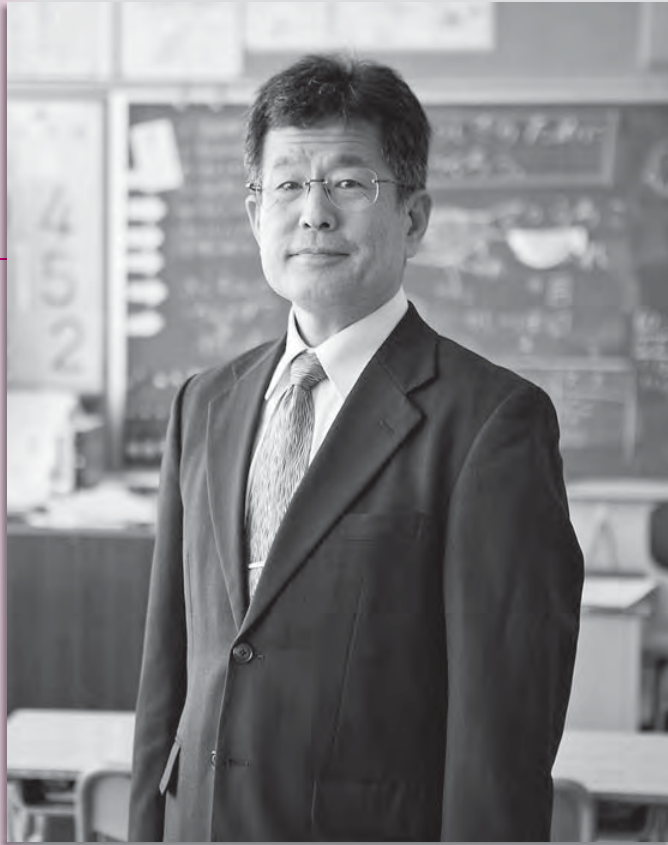
北海道 札幌市立新琴似しんとこ小学校校長 蔵本康彦 KURAMOTO YASUHIKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、蔵本校長が語る。

子どもが引き込まれていく  
授業に鳥肌が立った

私は初任校で、生涯の目標とする先生に出会いました。校長の菅原末吉先生です。私と同じ理科が専門で、その授業はとにかく「学ぶことは楽しい」と感じるものでした。菅原校長の数少ない声掛けで、子どもたちは次々と気付きや考えを発言し、学びが深まっていく。子どももしっかり見取り、緻密な準備をしていないと出来ない授業でした。菅原校長は子どもの興味を引き出すアイデアも豊富でした。ある日の

全校朝礼で、壇上に立った先生はおもむろにポケットから空の牛乳瓶と卵を出し、瓶の縁で卵を割って殻をむき始めました。「あれはゆで卵だ。何が始まるのだろう」。子どもたちはもちろん、私たち教師も壇上に釘付けになりました。先生は次にちり紙を取り出し、丸めて火を付けました。それを瓶に入れ、ゆで卵で口を塞いだのです。すると、ゆで卵はするすると瓶の中に吸い込まれていき、「すぽっ」と丸ごと入っていました。何が起きたのか、あ然としていた子どもたちに先生は一言、「分かるか?」と言って壇上を降



くらもと・やすひこ 専門教科は理科。札幌市立二条小学校、札幌市立山の手南小学校、札幌市立前田北小学校、札幌市立栄緑小学校などを経て、2007年度、札幌市立新琴似小学校に校長として着任。

## 高校時代

父、兄が教師という教師一家に育ち小学校教師を志す

## 大学時代

一度は別の職業を目指そうとしたがやはり教職の道に進む

## 1975 (昭和50)

初任校の札幌市立北光小学校で菅原末吉校長と出会う。菅原校長は北海道全体の理科教育の推進においても中心的な存在であり、その素晴らしい授業を見て教師の面白さに目覚める



初任校で修学旅行先の下見に訪れた時の写真(右端が蔵本校長)

## 2001 (平成13)

札幌市立栄緑小学校に教頭として赴任。03年度に同校で校長に昇任

## 2007 (平成19)

母校の札幌市立新琴似小学校に赴任

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

## 「子どもの言葉を伝えて 先生方を励ましていきたい」



### 3年間の指導で学んだ 準備と全体計画の大切さ

菅原校長が異動されるまでの3年間、毎週末、指導案を書き続けました。スポーツ少年団の指導を終えてから書くため、深夜までかかることもあり大変でしたが、大きな学びがありました。一つは準備の大切さです。一度、指導案を家に忘れた時に、菅原校長から初めて厳しく怒られました。授業がうまく出来なくても、準備をした上でなら改善のしようがある。しかし、気を抜いて準備が至らずに失敗したら、それはただの手抜きであり子どもたちに失礼だと。

もう一つは、全体計画の重要性です。指導案で最も頭を悩ませ、時間をかけたのは単元計画でした。学びは積み重ねによって得られます。1時間の授業を考えるためには、単元目標に向けた全体の流れの中で各授業のねらいを明確にする必要があります。校長となった今もこの姿勢は同じで、年間の学校経営を考え、例えば朝礼で話す内容も、年度当初に時期ごとの計画を立てています。菅原校長が常々おっしゃっていた「学びの主役は子ども」の授業が出

りました。子どもたちは目を輝かせて大歓声を上げ、休み時間には校長室で先生を質問攻めに行きました。しかし、菅原校長は「自分で調べてごらん」とだけ答えました。子どもたちはすぐに調べていました。子どもには自ら学ぶ楽しさを、私たち教師には、指導に工夫を凝らす大切さを伝えたかったのだと思います。

菅原校長の授業づくりから、私も多くを学びたい。そんな思いで、毎週、理科2時間分の指導案をノートに1ページずつ書き、月曜日の朝15分ほど、菅原校長に見ていただきました。先生は、改善の必要な部分がどこかを指摘するだけで、具体的な方法は教えてくれません。その代わりに、時々、私の学級で実際に授業をして見せてくださいました。私としては同じような発問や声掛けをしているつもりなのですが、子どもたちの反応は全く違います。私は授業記録を取り、先生の技を必死で学ぼうとしました。

来るよう、子どもの見取りも自分なりに工夫するようになりました。私は1日1枚、座席表に子どもの様子を書き込みファイリングしました。1日に10人ほどしか書けませんが、毎日書くうちに自分の思い込みではない、一人ひとりの個性が分かり、働き掛け方がつかめるようになりました。更に、書き込みを見て「あなたは昨日こうだったけれど、今日は出来たね」と良いことはどんどん声を掛けました。自分を見てくれていると子どもが喜び、前向きな気持ちになれることも座席表の良さです。今も先生方に実践を薦めています。ある日、菅原校長に「子どもたちが今日の授業は良かったと言っていたよ」と声を掛けられました。また、頑張っている他の先生方の様子もよく話されていました。直接褒められることは少なかったですが、一人ひとりの教師をよく見てくださっていたのです。当時、学校に互いに切磋琢磨する雰囲気があったのは、菅原校長のそうした声掛けがあったからだだと思います。今でも菅原校長は憧れの存在です。校長としてその姿に少しでも近づけるよう、これからも勉強していきたいと思っています。



特集

# 現在と未来を つなぐ 小学校教育

新教育課程が全面実施された。

小学校教育において、今後の5～10年間で重要な視点は何か。

その上で、学校は日々の実践において何をしていくべきか。

理論と実践の知見を併せ、考えたい。

## 基調提案

今後の小学校教育における  
重要な視点は何か。  
小・中学校の校長が、  
五つの視点を提案

p.4～9

## 理論編

「基調提案」で提案された  
五つの視点について、  
学校や校長に求められること、  
期待されることを  
各分野の識者が提言

p.10～19

## 実践編

学校や校長は、  
具体的に何をしていけばよいか。  
3人の校長が、  
「理論編」の内容を踏まえ、  
実践の工夫やヒントを議論

p.20～25

# 社会の変化に応じ、学校の役割、求められる学力の見直しを

新教育課程の下で今後5～10年を見据えて教育活動を進める際に、意識すべき重要な視点はどのようなものか。

義務教育における現在の課題や、今後の展望について、全国連合小学校校長の向山行雄会長と、全日本中学校校長会の新藤久典会長にうかがった。

## 社会の変化を踏まえて 公立小学校の役割を見直すべき時期

——今後5～10年の中・長期的な視点で小学校教育を考える時に、「これだけは外せない」という視点を話していただきたいと思えます。まず、これからの義務教育はどのような状況に置かれるのでしょうか。今と同じ点、異なる点、それぞれをお聞かせください。

**向山** 明治5年の学制発布以来、公立小学校は町や村のシンボルとして住民の拠り所となってきました。これからも、その役割は担い続けていく必要があるでしょう。一方で、今後は社会全体がますます速いスピードで変化し、それに伴い子どもと保護者の実態や

ニーズも変化していきます(図1)。その状況に公立学校がどのように対応するのか、どのような役割を担っていくのかという視点が重要だと思えます。

例えば、今の子どもは、生まれた時からインターネットに囲まれています。直接体験が減り、間接体験が肥大化している子どもをどのように指導するかは、喫緊の課題であり、今後も対峙し続ける必要がある課題でしょう。また、保護者は、いわゆる団塊ジュニア世代が増えていきます。この世代の保護者の価値観について、我々もっと理解を深めないといけません。保護者の後ろにいる団塊世代の祖父母の、学校に対するかわり方も注視する必要があります。

全国連合小学校校長会会長  
東京都中央区立泰明小学校校長

## 向山行雄

むこうやま ゆきお◎教職歴37年。東京都公立小学校教諭、東京都文京区教育委員会指導主事、東京都教育庁指導部指導企画課指導主事、東京都品川区教育委員会指導課長などを経て現職。モットーは「志を高く掲げて、力強く前進しよう」



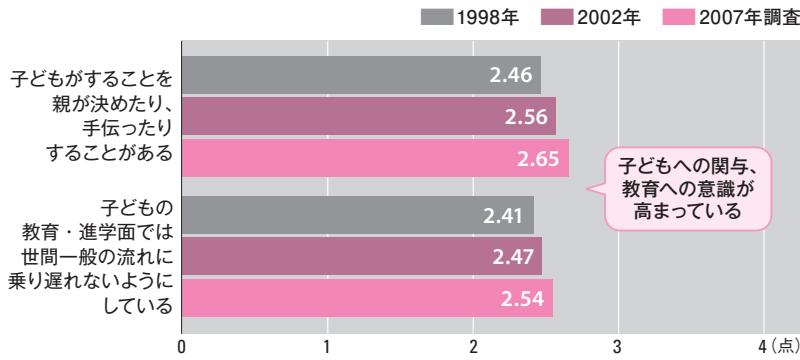
全日本中学校校長会会長  
東京都新宿区立西戸山中学校校長

## 新藤久典

しんどう ひさのり◎教職歴35年。東京都公立中学校教諭、東京都東村山市教育委員会指導室長、東京都教育委員会管理主事などを経て現職。モットーは「Never say "can't"。一口を信じて、まず行動する人になろう」

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

図1 保護者の意識の変化(小学3～6年生)



注)数値は「とてもあてはまる」を4点、「まああてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「ぜんぜんあてはまらない」を1点として無回答・不明を除いて算出した平均値  
 出典/Benesse教育研究開発センター「第3回子育て生活基本調査」調査時期は2007年9月、調査対象は首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の小学1年生から中学3年生の子どもをもつ保護者7,282人(うち小学3～6年生の保護者は2,188人)

こうした変化を捉え、各校が公立小学校としての役割を改めて考え、どのように子どもや保護者と向き合っていくべきかを見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。

**新藤** 私も、小・中学校共に、社会の変化に伴って変わっていく必要があると強く感じています。「義務教育だからなくなることはない」と、あぐらをかいていると進化できません。子どもが「この学校で学びたい」と思うような学校を常に目指すべきです。学校の役

割を見直す上で、教師にも主体的な姿勢が求められるのではないのでしょうか。

**向山** そうですね。この数十年を見ると、メディアの発達や社会の価値観の変化によって「学校バッシング」が続き、ある意味、学校は守りに入らざるを得ない状況でした。しかし、この2、3年で、小・中学校の教育活動が好意的に受け止められ、評価されるようになってきたと感じています。潮流が変わった今こそ、学校は攻めの姿勢に転じるチャンスだと、私は思います。

**新藤** 同感です。以前に比べて、「自分たちでやってみよう」と考える校長先生が増えてきたと思います。守りの経営で他校と同じことをするのはなく、自校の子どもたちを見て、それに応じた手立てを考える大切さが広まってきたことは、攻めの姿勢の表れだと感じています。

**向山** その姿勢が「学校ブランド」の構築につながるのではないのでしょうか。これまでは、とにかく新しい取り組みや他校と違う活動を行うことを「特色ある学校づくり」と言い過ぎていたと思います。そうではなく、地に足の着いた教育活動を通じて「学校ブランド」を構築することが、公立小・中学校の本来の役割だと思っています。

**新藤** 向山先生のおっしゃる「学校ブランド」とは、単に、目に見えるテストの点数の高さを保つことなどだけではありませんよね。そ

れは、本来の意味で社会や保護者の期待に込められているとはいえないからです。義務教育段階の学校としての役割を、各校で真摯に追究する姿勢が、「学校ブランド」につながるのではないのでしょうか。

## 少子化や子どもの変化の中で 新しい価値を生み出す学力を育む

——教育活動の中身という視点から考えると、今後、どのようなものが重要になるのでしょうか。

**向山** これまでも、これからも学校に期待されることの一つに「将来への備えをする」ことがあります。この点から考えると、現在、小・中学校には約1000万人が在籍しています。少子化によって10年後には約900万人になると推計されています。単純に考えても、現在よりも1割増の力を付けなければ、日本は生産性を維持できません。そのため、どのような力を育むのかは極めて重要です。新しい価値を生み出せる子どもを育むことは、不可欠だと思っています。

**新藤** 子どもの状況を見ると、考えることを面倒だと感じる子どもが増えるのではないかと危惧しています。自分で考えるのを早々に止めてしまい、誰かに正解を求めようとするのです。そのような子どもたちに必要なのは、論理的にとことん考え抜く力ではないでしょ



うか。

**向山** 社会の情報化が進む中で身に付けなければならぬ学力についても、もっと検討する必要があります。子どもはいろいろな知識を既に得ていて、教師との情報格差が一気に縮まりました。これまでの学力観や、授業時数(図2)とは異なる視点による指導が求められると思います。

**新藤** 多くの情報に囲まれている影響なのか、最近、世の中や自分の将来を見限ってしまふ子どもがいると感じます。「頑張っても良いことはない」などと、自分の可能性を諦めてしまうのです。残念なことに、「自分の子どもはこの程度」と見切りを付けてしまふ保護者もいます。考えることや将来の可能性に消極的な子どもに付けるべき学力を、もっと真剣に検討しなければなりません。

### 求められる学力育成のための授業づくりの重要性

——求められる学力が従来と変わることについて、重要な視点はありますか。

**向山** 授業づくりです。前提として、日本の先生方の授業力は世界に誇れるレベルだと思います。とりわけ、一斉授業での指導力は世界でトップではないでしょうか。この数十年、私は日本全国、いろいろな先生方の授業を4000回近く見てきましたが、昔に比べて、

今の先生方の授業力が落ちていとは思いません。しかし、約40年ぶりに授業内容や時数が増えたわけですから、ベテランの先生方も、授業づくりにおいて大きな壁にぶつかるとも、授業づくりと心配しています。

また、いろいろな教材が手に入りやすくなった反面、教師自身のアイデアやひらめきによって教材を分析・開発する力が弱まったのではないかと感じることもあります。こうした状況だからこそ、授業づくりが極めて重要になります。

**新藤** 中学校は、どうしても高校入試を意識せざるを得ないところがあります。高校入試で問われる知識の伝達を主眼とした、教師主導の指導から抜け出せない教師もいます。高校入試を意識しつつ、今後の社会で求められる学力を育む授業をいかにつくっていくかが問われています。

**向山** 加えて、今後、ベテランの先生が大量に定年退職し、新採の先生が急速に増えていく点も(図3)、授業づくりに大きな影響があります。

**新藤** そうですね。小・中学校共に、長年にわたり新採の先生が入ってこなかったため、校内で若手教師を育てるシステムが機能しにくくなっています。東京都では、08年度に人材育成の基本方針とOJTのガイドラインが出されました。まさに危機感の表れです。

**向山** おっしゃる通り、かつては先輩が後輩

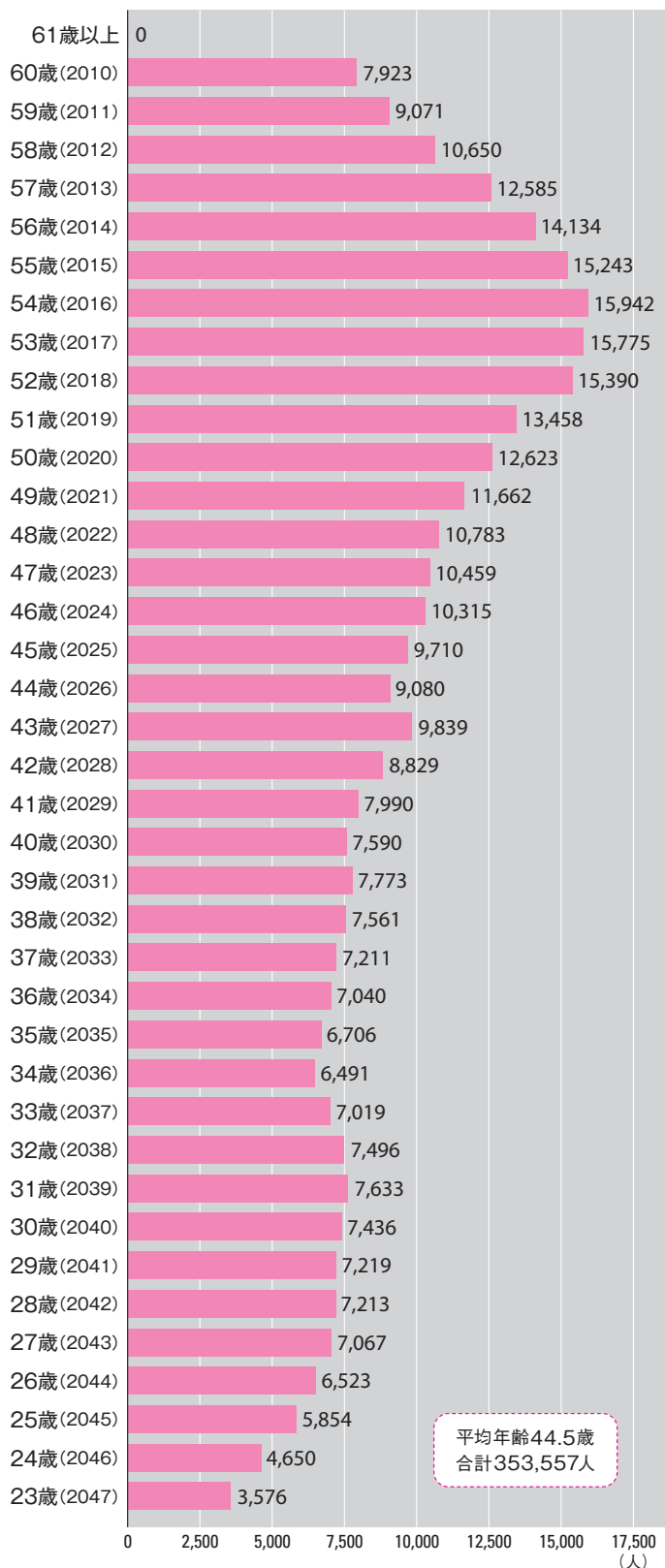
図2 学習指導要領と授業時数(小学校)の変遷

改訂年	6年間の総授業時数	特徴
昭和33~35(1958~60)年	5,821	教育課程の国家基準としての性格の明確化(道徳の時間の新設、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等)
昭和43~45(1968~70)年	5,821	教育内容の一層の向上=教育内容の現代化(時代の進展に対応した教育内容の導入)
昭和52~53(1977~78)年	5,785	ゆとりある充実した学校生活の実現=学習負担の適正化(各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる)
平成元(1989)年	5,785	社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成(生活科の新設、道徳教育の充実)
平成10~11(1998~99)年	5,367	基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの[生きる力]の育成(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)
平成20(2008)年	5,645	[生きる力]という理念の共有と実現(基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成、確かな学力を確立するために必要な時間の確保)

\*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」2008年1月17日 215~218頁 を参照し、編集部で作成

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

図3 公立小学校 年齢別教員数



注) ( )内は該当年齢の教師が定年退職をする年度  
\*文部科学省資料(2011.3.31)を基に編集部で作成

を育て上げる関係が校内にありました。周りの先生も、新採を即戦力というよりは時間をかけて育てる気持ちが強かったと思います。しかし、一校に複数の初任者が入ってくる状況では、難しくなっています。

**新藤** 小規模校が多くなっていることも、若手の育成を難しくしている要因の一つでしょう。成長していくのを待つ余裕がないため、「早く一人前になってほしい」と即戦力を求めてしまいがちだと思います。ただし、中学校では基本的に新採の先生は担任を持ちませんし、何事も学年団で進める傾向が強いため、

小学校に比べて、多少は負担が軽いかもかもしれません。

**向山** 若い先生方の増加と共に、彼らの価値観が変化していることも、育成方法に影響がありそうです。教師は、帰宅後や休日にも保護者や地域の方たちから電話がかかってきますし、地域行事への参加も期待されます。「24時間教師である」という覚悟がなければ、なかなか続けられる仕事ではありません。若手教師の離職率の高さの背景には、教師という仕事への思いが異なっていることもあるのではないかと思います。

**新藤** 最近の若手の先生の変化として、他の先生の授業や学級運営のやり方を見て、良い面を盗むという発想が弱まっている気がします。先輩の授業を見るように声を掛けるだけではなかなか動きませんし、実際に他の先生の指導を見たとしても「私には出来ません」と早々に諦めてしまう。出来ないのは当たり前で、10年後に出来るようになるために今すべきことを考えてほしいのですが、なかなかうまくいきません。個々の先生の自主性だけに任せるのは難しいかもしれません。

**向山** このように考えると、学校全体として





授業づくりを考えることが不可欠です。新しい学力を子どもに付けることが求められる一方で、新しい価値観を持った若手の先生が増えている状況下では、授業研究の充実がますます求められていると思います。

## 限られた資源の中で 目的を達するための組織づくりを

——授業づくり以外に、重要な視点はありますか。

**新藤** 学校の組織づくりだと思います。多忙な中で、良い授業をつくり、子どもに必要な学力を付けていくためには、校長の役割も含めた学校組織のあり方が問われます。

**向山** 学校組織を考える上では「不易」と「流行」を見定めることが大切になるでしょう。守り通すべきことは、たとえ学校外から「古臭い」と言われても維持していくべきです。一方で、社会や求められることの変化に応じて、変えるべきことは変える決断も必要です。各校で何を守り、何を变えるべきかを問直す必要があるのではないのでしょうか。

**新藤** 校長には、そのビジョンを示すことが求められますね。実際、校長がビジョンを持たずリーダーシップを発揮していない中学校は、往々にして荒れています。もちろん、校長は全能ではありませんから、周りの先生方の力を学校経営にいかに取り込んでいくかが重要です。そのためには、先生方が校長の「イエスマン」にならず、率直な反対意見を出せる雰囲気を校内につくることも必要ではないでしょうか。

**向山** 校長が力だねじ伏せても、なかなかうまくいきません。校長の仕事は、オーケスト

ラの指揮者のように、個性的な楽器を上手に束ねていく役割ではないかと思えます。

**新藤** 私もそう思います。ただ、教師が十数人という小規模校では、一人ひとりの教師がたくさんの役割を担っていることも見逃せません。一人の不協和音の影響が大きく、なかなかまとまらないケースもあるようです。今一度、教師の役割分担を見直す必要もあるかもしれません。

**向山** 学校経営において、確かに小規模校化の問題は大きいです。「ヒト・モノ・カネ」のいずれも潤沢であれば、学校経営は誰でも出来ます。限られた資源の中で、いかに学校組織を活性化できるかが課題でしょう。

## 子どもに不利益が出ないように 小・中学校の接続を進める

**向山** これからの義務教育を考える時、やはり小中接続の視点も欠かせないでしょう。小・中学校がそれぞれの学校段階で力を尽くしていることを、確実に子どもの成長の糧とするためです。以前、中学校の理科の授業を参観した時、先生が実験前に顕微鏡の操作方法を30分かけて説明していました。これは小学校で学んだ事項ですから、生徒からは早く実験に取りかかりたい様子がうかがえました。この先生は、小学校のカリキュラムを知らずに授業を進めていたのでしょう。こうし

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

た非効率的な指導が起こらないような接続を図っていく必要があります。

また、「中1ギャップ」は、子どもが中学校の教科担任制についていけないことも大きな要因です。そうした制度的な面からも接続のあり方を考える必要があります。

**新藤** 中学校側から見た課題は、中学校の教師に「中1ギャップ」があることです。一般的に中学校では、教師は3年生を卒業させた翌年に1年生の担任となります。すると、1年生がとても幼く見え、「何も出来ないのではないか」と能力を低く評価してしまうのです。例えば、小学生でも給食の準備は十分に出来ますが、中学校に入ると出来なくなってしまうケースがよく見られます。小6生と中1生の教師が交流し、新入生の力を正しく理解できるかが課題です。

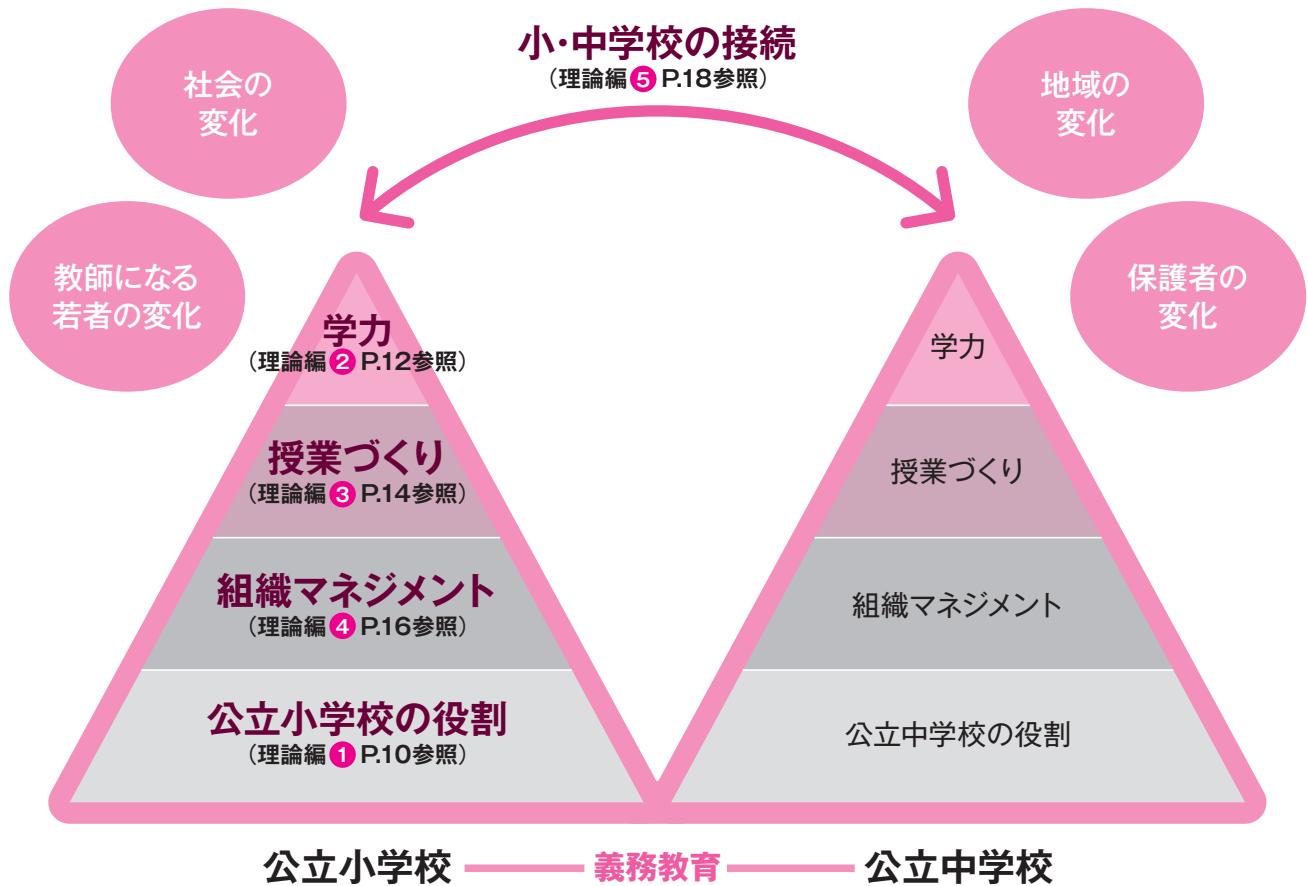
逆に、自分の生き方に関して考える素地をつくるキャリア教育は、その後の広い意味での進路指導につながります。小学校の間にもう少ししていただくの良いのではと思うこともあります。

**向山** 「教育の検証には20年かかる」とよく言われるように、小中接続の取り組みの成果や課題はまだ明らかではありません。今後は、問題行動の発現率など、短期間で測定可能なデータを参考にしつつ、自校に合った形を模索すべきではないでしょうか。

——本日はありがとうございました。

図4 これからの小学校教育において重要な五つの視点

「基調提案」で出された五つの視点をまとめた。この五つについて、具体的に何が求められるのか。次ページからの「理論編」「実践編」で考えていく



# 学びの基盤づくりを誠実に 家庭・地域と共に子どもを育む

聖徳大学院教職研究科教授 西村佐二すけじ

社会の変化に伴い、公立小学校を取り巻く環境も大きく変わっている。これからの公立小学校はどのような役割を果たし、社会の期待に応えていくべきか。現状の課題や今後のあり方について、聖徳大学院の西村佐二教授にうかがった。

## 義務教育の役割を問い直す必要性

**義務教育の役割が曖昧になり  
教師がやりがいを感じにくい状況に**

私が小学校の校長をしていた10年ほど前に比べて、最近、先生方に活力が乏しく、一体感が薄れているのではないかと気になってます。一人で仕事を進める傾向が強まり、先生方が職員室に集まることも減ったようです。その理由はおそらく次の二つにあると思います。一つめは多忙化です。これは、学校完全週五日制の導入を機に加速しました。「家庭や地域での教育を充実させる」という本来の趣旨が徹底されず、学校は多くのことを抱

えたまま、子どもが学校で過ごす時間だけが短くなったのです。

二つめは、2000年頃からの規制緩和により、競争原理が学校にも持ち込まれたことです。これにより、他の学校との差別化などによって学校が評価され、競い合う雰囲気が生まれました。

どんなに忙しくても、やりがいを感じていれば教師は生き生きとしていられます。しかし、こうした流れの中で、学校が本来大切にすべきことが曖昧になり、先生方は何をすべきかを見失っているように見えます。義務教育はすべての国民が受けるものですから、学校によって教育内容が異なるのは困ります。義務教育はあくまでも「義務」であり、「サー

ビス」ではありません。この点が混同され、先生方には手を尽くしても尽くしてもやり切れない疲労感があるように思います。教育基本法や学校教育法が改正され、義務教育の目標が明確にされました。今回の学習指導要領改訂も含め、これを機に、一人ひとりの校長先生に改めて小学校のなすべきことを見つめ直していただければと思います。

## 公立小学校がすべきこと

**学びの基盤を築くと共に  
学校で担うことを明確に伝える**

公立小学校の役割は、二つの基盤づくりにあると思います。それぞれの地域で生きていく上での基盤、そして、上級学校へとつながる学びの基盤です。こうした役割を踏まえる、今後の小学校に求められる教育活動は次のように考えられます。

基本となるのは、学習指導要領に定められている教育内容をしっかりと子どもに身に付けさせることです。その上で、伝統を引き継ぎながら、どの学校にも必ずある強みを自覚すると共に、自校の課題を見つけ、小さなことでもよいので新しいことに取り組むことです。これは、子どもの成長につながることに、校長先生がビジョンを示し、先生方が目標を共有して取り組むことで、先生方が手応えを



# 現在と未来をつなぐ小学校教育

実感し、学校に活力や一体感を生むことにもなります。

私が校長を務めたある小学校では、赴任当初、子どもたちが人の話を全く聞けませんでした。全校朝会でも同様だったため、先生方と協力し、朝会の後に話の内容を質問する小テストを試みました。数回後には、子どもたちは驚くほど話を聞けるようになりました。こうした目に見える成果があると、先生方に元気が出てきます。それが、結果的に子どもたちへの良い教育となるのです。

家庭や地域との連携は、「生きる力」を育むためにますます重要になります。学校がすべきことと、協力を求めることを明確にしましょう。例えば、給食指導やボランティア活動などで協力してもらえば、教師の負担軽減



にしむら・すけじ ◎東京都教育庁指導部初等教育指導課長、東京都公立小学校校長などを経て現職。専門は国語科教育。全国連合小学校長会会長、全国小学校国語教育研究会会長などを歴任。著書に『明日に生きる君たちへのメッセージ』（教育新聞社）、編著に『国語の活用力を育てる授業』（光文書院）など。

と共に、活動の質も高められます。小学校は、中学校や高校と比べて地域との結び付きが強い「地域の学校」です。小学校を「ふるさと」と思う住民が多く、「学校のために協力したい」という気持ちがあると思います。近年は、学校に対する保護者や地域の姿勢が変わってきたという声も聞きますが、だからこそ関係を大切にしてほしいと思います。校長先生は家庭や地域に対し、学校が出来ることや責任範囲を伝えた上で、協力をお願いしてみてください。時には言いにくい内容があったり、一時的に保護者との間に軋轢あつれきが生じたりするかもしれません。しかし、明確なビジョンを繰り返し伝えていけば、一緒に子どもを育てるという考えが必ず共有されるはずですよ。

家庭や地域と良い関係を築くには、地域性を踏まえることも大切です。私は、学校と地域の協力関係が熟していなかった学校では、学校が活動を主導しながら内容をオープンにすることで信頼関係を築きました。別の学校では地域の教育力が高かったため、地域全体で活動を考えていくような方針を採りました。

## 校長先生への期待

子どもに誠実に向き合い

自ら課題を見いだして目標設定を

教師には、どのような子どもにも誠実に向

き合う姿勢が不可欠だと思います。義務教育では、子どもは学校や教師を選べません。だからこそ教師の責任は重いのです。校長先生には、すべての子どもが生き生きと元気に通える学校づくりを目指していただきたいと思っています。そのためには、まず現場に立つ先生方がやりがいを感じる環境がなくてはなりません。

これまで小学校は、学力低下や教師の質の低下など、外部から問題を指摘されて対策に着手することが多かったと思います。しかし、言われたことをするだけの受け身の姿勢では、やりがいは感じられません。自分たちが見いだした課題を出発点に、「こんな学校にしよう」という目標を共有して努力する姿勢があつてこそ、学校全体の雰囲気が大きく変わっていくのです。

## ポイント

- 義務教育は「サービス」ではなく「義務」。学校によって教育内容が異なるべきではない
- 公立小学校の役割は基盤づくり。学校が出来ること以外は家庭や地域にも協力を求め、子どもの「生きる力」を育てていく
- 自ら見いだした課題を出発点に目標を設定し、活力ある学校づくりを

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

# 体験と言語を一体化した指導で 国際的に通用する力を付ける

帝京大文学部教授／帝京大小学校校長 星野昌治よしはる

求められる学力は、社会の変化と共に変わっていく。今後、日本の子どもが国際社会を生き抜く上で求められる学力とはどのようなものか。帝京大の星野昌治教授に整理していただいた。

## 今後、必要な学力とは

### 知識、思考力、学習意欲等を含む 総合的な力

国際的な競争にさらされる時代となり、学力に対する考え方が変わってきました。かつては、詰め込み教育などへの批判から、ややもすると学力について語ることはばかられる雰囲気がありました。今は、日本人が国際社会で生きていくために学力について考えることが不可欠という認識が広まっています。

それでは、国際的に通用する学力とは、どのようなものでしょうか。これはまさに、学校教育法第30条2項(図)で定義された三つ

の要素、すなわち基礎的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、そして主体的な学習態度と考えてよいと思います。このように、法律で「学力」を定義したことの意義は、とても大きいのではないのでしょうか。日本の子どもはこうした学力を付けて世界に立ち向かっていくという、国の考えの表れだからです。

この三つの要素のうち、どれが欠けても学力が高いとはいえません。基礎的な知識が不足していれば幅広く考えられず、考えても分からなければ学ぶ意欲は下がってしまいます。つまり、三つの要素は別個に存在するのではなく、相互に関連しているのです。

ここでいう学力には、知・徳・体の「知」

だけではなく、「徳」「体」も含まれています。知・徳・体もそれぞれが関係し合いますから、総合的に考えるべきです。例えば「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化している子どもは、身体が健康になって体力が付きまします。更に、生活習慣が整い、健やかな気持ちで毎日を過ごせますから、学習意欲も高まり、深く考えられるようになります。

日本では、子どもが校内の掃除をしたり、部活動をしたりと、伝統的に「徳」「体」を含めた総合的な教育を重視してきました。心を磨くこと、体を鍛えることが、学力を高める上でも重要だと考えてきたのです。この方針は、まさに日本が世界に誇れる部分ではないでしょうか。

## 考える力を育むために

### 「考えるもと」となる 体験活動・言語活動を充実

ここで「知」に目を向けると、これからは「考える力」を育む教育がより求められます。問

#### 図 学校教育法 第30条2項(抜粋)

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

題解決能力の育成に大きな役割を果たす理科が、「全国学力・学習状況調査」の対象教科に2012年から追加予定であることにも、それが表れています。

考える力を育むには、一定の知識・技能が欠かせません。しかし、その知識・技能が教え込まれたり断片的に与えられたりしたものであつては、それを基に考えることが出来ません。考えるためには、子ども自らが体験したり、それを言葉に残したり人に伝えたりといった活動、すなわち一連の体験活動と言語活動を経て、知識や技能が自分のものになっている必要があります。これらの活動が「考えるもと（土台）」となるのです。

例えば理科であれば、実験や観察をして、結果を振り返り、記録や説明をする学習を通して



ほしの・よしはる ◎東京都立教育研究所教育部長、東京都公立小学校校長などを経て現職。専門は初等理科教育、学校経営論。文部科学省小学校学習指導要領解説理科編作成協力者などを務める。編著書に『新しい小学校理科・授業づくりと教材研究』（東洋館出版社）など。

して、子どもは考えたり表現したり出来るようになります。机上の知識だけで頭の中をいっぱいにせず、体験活動と言語活動を一体化した活動を通して考える力や姿勢を身に付けていけるような、思考や気持ちに余裕のある、「伸びしろ」のある子どもを育てることが大切ではないでしょうか。

体験と言語の関係と同様に、思考、判断、表現も一体のものとして捉えられます。考えられるから判断が出来、判断が出来るから表現が出来ます。そして、表現することがまた、考えることにつながるのです。学校ではこれをばらばらに、一つずつ意味付けしがちですが、一体化して考えることが重要です。

学校段階別の役割を考えると、小学校は知識・技能の基盤を固めると共に、考え方や学び方を身に付けるべき段階です。小学校で考える土台づくりをしておくことで、生涯にわたり伸び続けられる子どもになるでしょう。

## 校長先生への期待

### 目指す子ども像を明確にして 校長主導でカリキュラム作成を

小学校の教師の大切な役割は、個々の子どもに応じた手立てを講じ、一人ひとりの才能を開花させる指導と支援をすることです。指導が苦手な教科もあるかもしれませんが、子

どもはその教科を楽しみにしています。例えば、理科の指導が苦手でも、子どもと一緒に実験し、失敗したら原因を突き止め、成功したら皆で喜ばばよいのです。

私は、ピアノが得意ではありませんでした。学級担任をしていた時は1本指で弾くこともありましたが、「10本指で弾く先生もいるけど、先生は1本指で弾けるんだぞ！」などと逆手に取って楽しく指導していったものです。

子どもの力は無限で、どの方向にも伸びていく可能性を秘めています。だからこそ、校長先生は、どのような子どもを育てたいかをよく考え、そのためのカリキュラムをつくり、先生方と共に具現化していく必要があります。教育課程の作成・管理において校長先生がリーダーシップを発揮することが今後は更に重要になるでしょう。

## ポイント

- 学校教育法で定義された学力の三つの要素のように、知・徳・体に表される力を総合的に育てる必要がある
- 「考える力」の育成が特に重要。体験活動・言語活動を一体として捉え、充実させることが「考えるもと」となる
- 教育課程の作成・管理において、校長先生のリーダーシップがますます求められる

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです



# 事実に基づくと授業研究を通じ 考える力を育む授業づくりを

国士舘大体育学部教授 北俊夫

知識・技能はもちろん、考える力や学習意欲を育む授業づくりがより重要になっている。  
国士舘大の北俊夫教授は、子どもに考える力を付ける手立てを  
多くの教師が共有できるようにするためには、校内での授業研究が極めて重要な役割を果たすと語る。

## 授業研究を充実させる必要性

### 考える力を育む手立てを 授業研究を通じて確立する

子どもに学力を付けること——これは子ども自身や保護者のみならず、社会全体の関心事であり、学校には常に大きな期待が寄せられています。

教育活動の中で、学力向上と最も密接な関係があるのは授業です。授業を行う教師の役割を一言で表すと「分からない子どもを分かるようにすること」でしょう。それが出来る一人前のプロの教師であるために、教師は授業力を絶えず高めなければならないのです。

では、「授業力」とは何か。授業力の構成要素は五つに整理できます(図)。これらは、これまでもこれからも重要な不易の要素です。加えて、今後はパソコンや電子黒板、デジタル教科書などを効果的に活用する力も、授業力の要素となるでしょう。

日本の教師は、知識・技能を教える技術に長け、教え上手といわれています。これは「教育」の「教」に当たります。半面、考える力や意欲など、教えるよりも育てる必要のある「育」の部分の指導は不十分でした。現在も、子どもを学びに向かわせたり、考えさせたりする手立ては必ずしも明確でなく、全教師が共有しているとはいえないでしょう。

今後は、考える力を育む授業をつくること

きた・としお◎東京都公立小学校教諭、東京都教育委員会指導主事、文部省(現文部科学省)初等中等教育局教科調査官、岐阜大学教授を経て現職。専門は社会科教育、教育課程論。著書に「若い先生に伝えたい!! 授業のヒント60」授業相談Q&A」「文溪堂」新教育課程と社会科の授業構想(明治図書出版)など。



が更に重要になります。そこで、これまで以上に大切になるのが、校内の授業研究です。書物に学ぶことも出来ませんが、子どもの思考や理解を促すために子どもの発言をつなげたり、絶妙のタイミングで教材を提示したりする技術は、いわば職人技です。先輩教師の優れた授業を見て真似たり、自身の授業について助言を受けたりすることが成長を促します。授業研究の充実が、子どもに考えさせる手立てを確立する手がかりとなるのです。

#### 図 教師に求められる授業力の要素

- 1 発問や指示によって思考や理解を促す力
- 2 教材を開発して効果的に活用させる力
- 3 子どもの発言を引き出し生かす力
- 4 板書を構造的に構成する力
- 5 子どもの力を評価して授業改善につなげる力

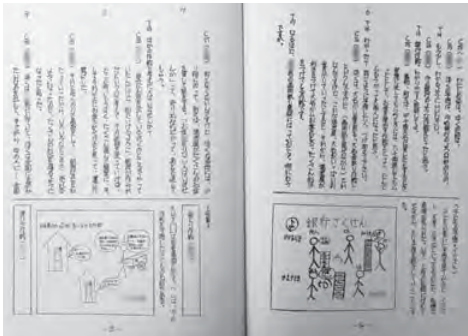
# 現在と未来をつなぐ小学校教育

## 授業研究の実践ポイント

### 事実に基づいて検討し 課題を指摘し合う研究会を

授業研究で重要なことは、「授業の事実に基づいた検討」です。授業研究会に参加すると、「子どもが意欲的に学んでいた」「教材が良かった」という感想をよく聞きます。しかし、なぜ意欲的に学べたのかなど事実に基づいた検討でなければ、次の授業づくりのヒントが得られず、授業改善にも結び付きません。

事実の共有に大きな役割を果たすのが、授業記録です。授業後すぐに協議会を行う時は、授業の流れやポイントとなる発言を中心とした概略で構いません。授業を撮影したビデオを用いてもよいでしょう。私は小学校の教師時代、授業研究会の有無にかかわらず、授業



**写真** 小学校教師時代の北教授が書いた「授業記録」。上段が授業の流れ、下段が授業時の思いやねらい、反省など。発問や発言と共に、教材や資料提示のタイミングも記す。北教授は45分間の授業を7～8時間かけて記録に起こしていた。録音をすると、授業に対する緊張感が薄くのもよさの一つだという

\*上記の写真はウェブサイトでご覧いただけます  
<http://benesse.jp/berd/> 情報誌ライブラリ (小学校向け)

をテープレコーダーで録音し、発問や子どもの発言を正確に書き起こし、ねらいや反省と共に整理していました(写真)。授業記録から、説明が長すぎたり、よい発言を見逃していたりしていることに気がきます。

授業研究では、授業の課題について検討することも欠かせません。最近の授業研究会では、授業者を褒めることが多いように感じます。私が若い頃は「あの発問は良くなかったね」など、先輩から厳しく指摘されました。しかし、それは指導への批判であり問題点の指摘ですから、授業力の向上に結び付いたと今でも感謝しています。課題の提示からより良い授業づくりへの改善策が生まれます。若手の先生から「褒められるだけでなく、具体的な助言が欲しい」という声をよく聞きます。ベテランの先生には遠慮もあると思います。が、時には厳しい指導が若手の先生を育てるのです。小規模校では人間関係への気遣いから課題を指摘し合うことが難しいかもしれません。その場合、近隣校と合同で授業研究を行うことも考えられます。

## 校長先生への期待

### 実態把握に基づいて 授業研究の企画立案を主導

実りある授業研究を行うためには、校長先生

## ポイント

- 今後求められる考える力を育む授業づくりのためには、授業研究の充実が有効
- 授業の事実に基づく検討や率直に課題を指摘し合うことから、授業の具体的な改善策が生まれる
- 授業研究は、授業力向上だけでなく、教師の人間関係を深め、職員室の雰囲気を変える

による現状把握が不可欠です。子どもの学力の状況、教師の指導上の課題、国や自治体の教育施策の三つを、バランスよく把握します。次に、授業研究をマネジメントするという視点で、効果的な研究手法を考えていきます。校長先生が主導し、必要に応じて、先進校や先行研究に学ぶこと、講師の招へい、他校との合同研修の企画立案などを、学校全体で役割分担をしながら進めていくとよいでしょう。

授業研究を通して、先生方の人間関係が深まることがあります。2年間、授業研究の充実に取り組んだある小学校の校長先生は「先生方が職員室で授業や子どもの様子を話すようになった。雰囲気が変わった」と喜ばれていました。校内研究を通して校内に根付いた校風は学校の伝統になり、更に研究を活性化させるという好循環を生むのです。

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

# 一人ひとりの教師の意識を高め 「協働する組織」をつくる

千葉大教育学部教授 天笠 茂

多忙な中で質の高い教育を実現するためには、組織のあり方も重要だ。教師が個々に動く組織から、「協働」を重視する組織へ……。千葉大の天笠茂教授は、これからの学校に求められる組織をそう説明する。

## 学校組織の抱える課題

「組織」としての対応が  
求められる場面が増えた

学校組織は、企業などに比べると、教師一人ひとりの裁量で動ける範囲が広いことが特徴です。良し悪しの両面がありますが、伝統的に受け継がれてきた組織形態です。ところが、そうした組織のあり方では世の中の期待に応えられないケースが目立つようになりました。

学級担任をはじめ、一人ひとりの教師と、子どもや保護者との一对一の信頼関係が教育の土台になるのは、昔も今も変わりません。

しかし最近では、個々の教師だけでは解決できない複雑な問題が増えてきました。保護者の要望に学級担任が対応し切れなくなり、管理職が動くケースなどもよく見られます。

保護者が「たまたま、この先生は良かった」というように、良い教師との出会いを運として考えず、学校としての教育の質の向上を求めるようになっていくことも、組織で対応する必要性を高めています。

学校内の環境の変化も無視できません。コンピュータの導入などもあり、個々で仕事をすることが増えてきました。教師同士のつながりが弱まると、先生が孤立しやすくなります。

こうした実態から、学校は「協働」をキー

あまがさ・しげる◎専門は学校経営学、カリキュラムマネジメント。千葉県教育委員長、第6期中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員などを務める。著書に『学校経営の戦略と手法』（ぎょうせい）、『小中一貫教育のマネジメント』（監修・ぎょうせい）など。



ワードに、組織づくり、すなわち組織マネジメントを再考する必要に迫られているのではないだろうか。

## 組織マネジメントのポイント

目標を共有し達成する過程を通じ  
教師間のつながりをつくる

組織マネジメントは、形を整えることが最終目的ではありません。目標設定や会議の効率化の方法など、単に新しい試みを模倣して取り入れても、一向に課題が解決しないことがあります。形よりも、「目標達成のために組織が十分に機能しているか」と、中身を見つめる視点を持ってください。そのためには、



# 現在と未来をつなぐ小学校教育

教師同士の距離感が近く、つながりのある状態をつくり出すことが大切です。

では、教師間のつながりはどのように深めていけばよいのでしょうか。私は、学校全体で「目標」を設定し、共有、達成、評価することが、最も有効な方法だと考えます。決して目新しい方法ではありませんが、これをどれだけ地道に、こだわりを持って実践できるかが重要なのです。

これまでの学校の目標は、理念に近い抽象的な内容が多かったと思います。理念は大切ですが、組織マネジメントにおいては、項目を絞り、実行のプロセスと評価の方法を具現化できるような目標を設定すべきです。

従来は、学校経営や授業などの目標がばらばらに存在することも見られました。担任が個々に目標を立てることもあったと思います。そうではなく、一つの最終目標に向かって個々の目標が有機的に関係付けられ、教師全員がかかわる組織が理想的です。

一般的に「学校経営と授業は別だ」と考えられています。果たしてそうでしょうか。学校経営は、学校としての目標を達成する営みですから、当然、教育活動も含まれます。学校経営は管理職の先生だけではなく、授業を実践する先生方のものでもあることを忘れてはなりません。

今後、学校全体で協働する体制を築くことはますます重要になります。管理職を目指す

か否かに関係なく、一人ひとりの先生が組織観を持つ必要があります。中堅になってはじめて組織に目を向けるのではなく、これからは若手の頃から「教えるということ」「教える中身」に加え、「学校という組織のあり方」についても考えていくべきでしょう。もちろん、教員養成に携わる大学等でも意識すべきことです。

こうした実践を通してつながりが強まった学校では、さまざまな場面で自然と組織的に対応できるようになります。例えば、学級崩壊は起きてから組織で対応し始めるケースが見られますが、日常的に先生同士の距離が近く、互いの目配せが十分であれば未然に防げることもあるでしょう。チームで動くうちにまとめ役やけん引役が自然と現れて、リーダーが育つという成果も期待されます。

## 校長先生への期待

### 理念や目標を明確に持ち 中堅層の先生方の力を動員

組織マネジメントの本質は、組織の実態に合わせて自らマネジメントを考え出していくことにあり、教えられた手法を流用するだけでは限界があります。学校規模や校長先生のパーソナリティーなど、各校の特性を踏まえてより良い形を模索する姿勢が求められます。

す。

その第一歩として、校長先生は先生方に対して、理念や目標を明確に打ち出してください。年度初めに伝えるだけでなく、何度も説明したり、フォローする機会を設けたりするなど、戦略的に働き掛けていきましょう。

その際、校長先生だけでは組織全体に目配りするのは難しいため、いかに中堅層の先生方の力を動員していくかが、組織として機能する鍵となります。中堅層の先生方が少ない学校では、若い先生方がその役割を担えるよう導いていく必要があるでしょう。

組織を率いる校長先生は大変なことも多いでしょうが、地域社会とかわりながら学校を経営するのはとても創造的でやりがいのある仕事です。日頃から自らの意欲を奮い立たせる気持ちを持つこともリーダーとして大切にしてほしいと思います。

## ポイント

- 組織マネジメントは、教師間のつながりを生み、目標を達成できる状態をつくることが目的
- すべての先生が授業などの教育活動も学校経営の一部として考え、組織を意識して行動する必要がある
- 組織マネジメントに正解はない。個々の実態を踏まえて、校長先生を中心に創造することが大切

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

# 小・中学校の円滑な接続を通し 9年間で一定の力を育む

白梅学園大子ども学部教授／白梅学園大大学院子ども学研究科研究科長 無藤 隆

小中接続への関心が高まっている。白梅学園大の無藤隆教授は、今後、教育の質を保障する上で、小・中学校を連続した「義務教育期間」として捉え、9年間を通じた教育の成果を考える必要性を強調する。

## 小中接続が求められる背景

### 小・中学校の期間の長さや 9年間のつながりに課題

義務教育である小・中学校では、9年間を通してすべての子どもに一定の力を付ける必要があります。この点が、義務教育でない故に多様性に富む高校教育との役割の違いです。ところが、現実には、9年間を通じて義務教育に求められる力を完成することが、難しくなっています。その背景となる課題を3点に整理してみましよう。

1 点目は、各学校段階の期間の適切さです。小学校については、発達段階から見て思春期

小学校教育では、指導内容の量の増加や質の高まりにより、特に高学年で教科内容の専門性が求められます。専科の教師を増やすことは有効ですが、小規模校が進む中で容易ではありません。中学校でも、小規模校を中心に専科の教師の確保が困難になっていくでしょう。

このような課題改善のために、小中接続が求められているのです。

## 小中接続のポイント

### 情報共有や人事交流を通し 指導に連続性を持たせる

ここ数年、小中接続への意識が高まり、ほとんどの学校が何らかの試みを始めています。接続の効果をより高めていくためには次の点が重要です。

#### ①カリキュラムを調整する

小・中学校の教師が互いの学習指導要領に目を通し、加えて、実際の授業の本身も知ることが大切です。例えば、「総合的な学習の時間」は、学習指導要領に具体的な学習内容は書かれていません。小・中学校で重複しないよう、内容を把握することが必要です。

#### ②指導方法の違いを理解する

小学校は子どもの発言や話し合いを生かしてきめ細かく指導すること、中学校は各教科

にさしかかる高学年と、幼児に近い低学年を、一つの枠組みで指導します。その難しさを考えると、6年間は長すぎるのかもしれませんが。一方、中学校は、学力基盤の完成と受験指導を両立させつつ、生徒指導や部活動指導にも時間を割く必要があり、3年間は短すぎると思います。

2 点目は、小・中学校での学習の進め方や指導方針の違いが大きいこと、そして小中接続の際の指導に非効率な点があることです。小・中学校での学習サイクルの変化に子どもが対応できなかつたり、小学校での学習内容の復習に、中学校で多くの時間を割いたりしていることがあると思います。

3 点目は、教師の人事の問題です。今後の

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

むとつ・たかし◎お茶の水女子大生活科学部教授などを経て現職。専門は発達心理学、教育心理学。第6期中央教育審議会委員、同初等中等教育分科会教育課程部会長などを務める。著書に『現場と学問のふれあうところ』教育実践の現場から立ち上がる心理学』（新曜社）など。



の専門的な部分まで指導することを重視します。子どもの戸惑いを大きくしないために、互いの違いを理解し合うことが大切です。

### ③子どもの実態を共有する

中学校は教科担任制ですから、学級担任が子どもと接する時間は短くなります。そのため、小学校との間で個々の子どもに関する情報が共有されていなければ、実態把握に時間がかかり、支援が遅れてしまいます。小学校が「学習カルテ」のような形で子どもの学習や生活の状況を中学校に細かく伝えることは、一つの有効な手段です。

### ④学習内容・習慣の定着を連続して考える

学習内容の多い中学校で、必要以上に小学校の学習内容の復習に時間を割くことがないよう、小学校の最後に必ず総復習をしておく

など、小・中学校で学習内容の定着のさせ方を協議することが必要です。また、中学校では、家庭での自主学習が小学校以上に求められます。小学校高学年から、こうした学習スタイルを徐々に取り入れるなど、段差を小さくする工夫が求められます。

### ⑤人事交流を活発にする

生活指導も同様です。小学校は服装や髪型は比較的自由ですが、中学校は校則で規定されます。子どもが指導方針の違いに戸惑うことがないように、伝え方を考えましょう。

### ⑥人事交流を活発にする

小・中学校間での人事交流を含む人事交流の活発化には、人事の効率化のみならず、授業の質を高める効果も期待できます。例えば、中学校の英語教師が小学校の外国語活動の指導に入れば、教師にとっては小学校の実態がつかめ、子どもにとっては専門性の高い授業を受けられる良さがあります。同様に、他教科でも中学校の専科の教師に指導に入っても、例えば、小規模校でもさまざまな専門の教師を集めることが出来ます。中学校とのつながりのある指導がなされることも良い点です。

## 校長先生への期待

互いを認め合うことから  
相互理解を深めていく

小中接続は、意識的・物理的な両面が揃っ

## ポイント

- 義務教育期間として、小・中学校の9年間を通じて一定の力を付けるために小中接続が必要
- 互いの学習内容や指導方針を理解し合い、段差や違いに子どもが対応できるよう、連続的に指導を考える
- 互いの良さを認め合い、校長先生のリードの下、意識面・物理面の両方から接続を円滑化する

ではじめて円滑に進みます。意識面としては、小・中学校それぞれに伝統があり、どちらが「良い」「悪い」ではないことに留意してください。批判からは何も生まれません。それぞれが認め合い、「子どものために」という共通の目的の下、互いの良さを部分的に取り入れ合うことが必要です。成功している事例を見ると、それぞれの校長先生がリードして校内の雰囲気づくりをすることの大切さも伝わってきます。

一方、物理面では、定期的に顔を合わせる機会を設けることが出発点です。互いに多忙でしょうが、実際に先生同士が会って話さなければ相互理解は進みません。

理想的な接続の形は、子どもの個人差や地域差によっても異なります。実践が進められている事例を参考にしながら、自校に適した形を模索していただきたいと思えます。

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです



# 伝統を土台に、未来へ向けて 活力ある学校づくりを

社会の変化に対応しつつ、未来を生きる子どもたちを育む教育活動を行っていくために、小学校では具体的に何をしていくべきか。

「基調提案」(P.4～9)や「理論編」(P.10～19)を受け、3人の校長先生が学校づくりのビジョンや校長の役割、日々の実践の工夫について意見を交わした。

## これからの公立小学校の役割

**多様な子どもが共に学ぶ中で  
「生き抜く力」を付ける**

——これからの小学校教育について、具体的なビジョンとその方策をご提示いただければと思います。まずは、3校のご紹介をお願いします。

**向山** 本校は東京の銀座にあります。古くは地元商店の子どもが中心でしたが、今は医師や弁護士など専門職の子どもが多く、広域からの交通機関を利用した通学がほとんどです。

**露木** 本校は東京の下町情緒の感じられる町

にあり、ほとんどが地元の子供です。3、4代前から本校に通い、「学校がふるさと」と思ってくださいる保護者や地域の方が多いです。

**加藤** 本校は統合を重ね、2010年度で開校7年目というまだ歴史の新しい学校ですが、地域には古い歴史があります。校区は大阪の玄関口である大阪駅を含み、大阪市でも1、2を争うほど広域です。校舎はオープンスペースの造りが特徴です。

——では、公立小学校の役割について話を進めていきたいと思います。「基調提案」「理論

東京都台東区立台東育英小学校校長

**露木昌仙**

つゆき・まさのり◎東京都公立小学校教諭、東京都荒川区教育委員会指導主事などを経て、現職。全国連合小学校長会対策部長を務める。  
台東区立台東育英小学校◎2001(平成13)年、台東区立育英小学校、同区立柳北小学校の統合により開校。児童が取り組む育英太鼓、金管バンドは、地域の行事にも多く参加する。児童数は305人。



編」では、「今は改めて公立小学校の役割を見直す時期」というお話が出ました。先生方の考えをお聞かせください。

**向山** 学校の役割は、「今の充実を図ること」と「将来に備えること」の二つだと考えます。今を楽しく、豊かな気持ちで暮らせることも大事ですが、それだけでは将来、困ってしまう。そこで、多少の困難が伴っても後々役立つ学習をするなど、将来への備えが必要となります。時代の求めに応じて、この二つの役割のバランスをよく考えることが重要です。

**露木** 公立小学校は、多様な子どもが共に学

# 現在と未来をつなぐ小学校教育

ぶ環境にあることが特徴の一つです。特別な配慮を要する子どもや外国籍の子どもも含め、いろいろな背景で育った子どもが一緒に学ぶという環境を、どのように生かすかという視点が重要ではないでしょうか。

**加藤** そうですね。多様な子どもたちが共に学んで育つ環境は素晴らしいことです。多様な個性を尊重し、一人ひとりを大切にした教育を進めることが、公立小学校の大きな特長といえるでしょう。また、地元の子どもたちがいるからこそ、地域の応援団が大勢いることも、公立小学校の強みだと思います。

最近よく思うことの一つは、これからの社



東京都中央区立泰明小学校校長

## 向山行雄

むこうやま・ゆきお◎東京都公立小学校教諭、東京都教育庁指導部指導企画課指導主事、東京都品川区教育委員会指導課長などを経て、現職。全国連合小学校長会会長等を務める。  
中央区立泰明小学校◎1878（明治11）年開校。関東大震災復興事業として建てられた校舎は、経済産業省から「近代産業遺産」に指定されている。卒業生には島崎藤村や北村透谷ら、多数の著名人がいる。児童数は364人。

会を考えると「生きる力」では物足りず、子どもたちには「たくましさ」が求められ、「生き抜く力」が必要になるということです。これからの公立小学校は、そのような「たくましさ」を子どもたちに育むという強い思いを持って教育を進めていかなければならないと思います。その思いの表れとして、各校が特色を前面に出し、「こういう教育を進めますよ」という方向性を示すことが求められるのではないのでしょうか。

## 「福祉」「サービス」への役割拡大は「教育」の弱体化か

**向山** 学校の「特色」は、「活力」と言い換えられるでしょう。地域資源や伝統など、その学校が持つ良さと勝負するという考え方だと思います。西村先生がお話しされていたように（P.10参照）、学校の歴史をうまく生かして前に進んでいく必要があります。本校はモットーとして「伝統と進取」を掲げていますが、そこには伝統を重んじるだけではなく、「これからの教育をつくるためには、進取の精神が大切」という強い思いがあります。

## 露木

私は、保護者に対して「伝統と創造」についてよく話しています。学校の背景には地域住民のたくさんのおいがありますから、地域の応援団を上手に活用して本校らしい伝統を築いていきたいと考えています。それが、

先ほどからのお話にある学校の「特色」になるはずですね。そうした地域の財産は、新旧にかかわらず、どの学校にもあるでしょう。

今、難しいと考えているのは、公立小学校に「教育」だけでなく、「福祉」の役割を求める保護者が増えつつあることです。小学校は教育機関であると強く伝えていくべきだと思う一方、保護者の理解を得にくい現状もあり、悩ましいところです。

**向山** 私は「教育」と「福祉」は別物であり、分離する必要があると思います。現実には家庭に対して一定の支援が必要なのも事実ですが、それは相談をされたら助言する程度にと



大阪府大阪市立扇町小学校校長

## 加藤博之

かとう・ひろゆき◎大阪府公立小学校教諭、大阪府教育委員会教務部管理主事などを経て、現職。大阪府小学校長会渉外部長を務める。  
大阪市立扇町小学校◎2004（平成16）年、大阪市立済美小学校、同市立北天満小学校の統合により開校。縦割り班活動を充実させ、リーダーシップ育成や仲間づくりに注力する。児童数は316人。

# 学力、そして授業づくりのために

どめるべきだと考えます。本格的に福祉にかかわると、学校の本体である「教育」が弱体化するという本末転倒な結果を招きます。むやみに公立学校の役割を拡大することは、公教育の衰退につながると思います。

**加藤** おっしゃる通りですね。ただ、学習指導をしているだけでは、学校が成り立たなくなっていることも事実です。給食費の未納も含めた経済的な問題や、家庭の状況が多様化していることを考えると、学校には家庭を支援する仕組みが求められつつあるのではないのでしょうか。

**露木** 「教育」に「サービス」の要素が入り、拡大していることについても思うところがあります。6、7年前に受けた自治体の研修会で、学校も民間サービスのCS（顧客満足）の考え方を取り入れる必要があると伝えられました。しかし、「子どもが満足する教育」だけでよいのか疑問に思います。子どもが多少の無理をしても「大変だったけれど終わってみたら良かった」と感じられる経験が、結果的にその子を大きく成長させるからです。ところが、今は「子どもが先生に怒られた」と学校に苦情を言う保護者もいます。教師は一人ひとりの子どもをより良くしたいという思いを持っています。それはサービス業とは根本的に異なる考え方です。「学校は教育の場である」と、保護者に対してもっと発信すべきかもしれません。

## 「知・徳・体」を大切にしながら「徳」「考える力」の充実を

—公立小学校の役割を踏まえて、今後求められる学力について考えをお聞かせください。

**加藤** 星野先生がお話しされていたように（P.12参照）、日本の教育では「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを育てることが重要だと思います。その中でも特に、今後は道徳教育や人権教育を更に充実させ、自尊感情を高めると共に「徳」の成長を見据えて取り組む必要があります。こうした力が学習の土台になり、将来にわたり役立つと思うのです。

**露木** 同感です。「考える力」は、まず相手の発言を受け止めて認めた上で、自分の考えを表現するという「かわり合い」を通して伸びる力です。そうした子ども同士の関係は、加藤先生が話してくださったように、道徳教育で育まれると思います。子どもの規範意識の低下が指摘されますが、学習規律が守れる学級は、人間関係も円滑ですし、考えるレベルもどんどん上がります。

**向山** 日本の子どもの学力は世界でもトップレベルです。更に日本は、世界から好かれる国としても上位にいると聞いています。これ

らは、日本人が国際社会を生きていく上で重要であり、維持していく必要があります。その上で、「考える力」、すなわち課題解決のために習得したものを活用する力を更に高めて、国際競争が激しくなる中で新しい価値を生み出せる人材を育てなくてはなりません。

## 自分の授業の再現と教師同士の学び合いから学びが

—お話しいただいたような力を付けるために、各校でどのような取り組みを進めるとよいでしょうか。

**露木** 人とかわり合う力を育てる授業をつくることは、将来を考えると不可欠です。そのような授業でなければ、子どもは充実感を抱かないと思います。授業研究を通じて良い授業づくりを目指すことの大切さを説く、北先生のお話（P.14参照）に同感です。

**向山** 教師は誰でも「良い授業がしたい」と願っています。子どもが一番好きな先生も、休み時間に一緒に遊んでくれるだけの先生ではなく、授業が分かりやすい先生です。

小学校教師は、年間約1000コマの授業を受け持ちますが、授業力の向上に近道はあ



# 現在と未来をつなぐ小学校教育

りません。力を高める方法は、「他の先生に授業を見てもらう」「他の先生の授業を見る」「自分の授業の記録を取って分析する」の三つしかないと思います。他の先生の授業を見て、自分より少し低いと思ったら、自分と同じレベル。同じだと思ったらはるかに上で、少しすごいと思ったら神様のようなレベルです。また、三つの方法の中で授業記録は自分だけで出来ます。私はかつて、年間100コマの授業の板書を自らすべて記録すると共に、折りに触れてテープレコーダーで録音して文字に起こしました。これを繰り返すうちに、45分間の授業を振り返って再現できるようになり、授業の構成力が身に付きました。

**露木** 教師同士の学び合いの大切さも実感しています。本校はオープンスペースの校舎ですから、他の学級や学年の授業が互いに見えるやすい状態です。そうした環境もあって、学校には教師同士が遠慮せずに学び合う開放的な雰囲気が出ています。

**加藤** 確かに、切磋琢磨する環境がなくては、教師は伸びません。特に、教師の向上心は、授業研究を通して高められると思います。本校では、毎年、すべての先生に研究授業や公開授業の実施を課しています。そうした環境での学び合いはとても大切で、さまざまな角度からの意見を受け止めることが、授業改善を促していくものと思います。例えば、学級で、椅子の並べ方を少し変えたと子どもの視

点が変わることを知るだけで、新採の先生の授業が大きく改善されることもあります。

先生方にはそれぞれ得意分野があるので、校長がそれを見極めて担当を任せたりすれば本人は意欲的になり、ひいては授業研究もより活性化するのではないのでしょうか。

**向山** 授業研究の工夫として、参観者が発言や板書など10項目を4段階で評価する仕組みも取り入れています。5段階にすると真ん中の3に集中しますから、4段階で必ず良い・悪いを判断させるのです。そうした一歩踏み込んだ改善姿勢が授業を見る目を養います。

**加藤** 本校では、1か月間の学校公開期間を設けています。保護者や地域住民が大勢訪れますから、教師の緊張感が続きます。教材研究、発問や板書を工夫しようという気持ちも高まり、日々の授業改善につながります。ただし、業務が多い中で大きな負荷にならないよう、校長には先生方の業務を調整する力が求められます。

**校長先生のサポートが  
若手教師の授業への意欲を伸ばす**

**露木** 今後は若手教師の育成もますます重要になるでしょう。本校では、若手の先生に年3回の研究授業を課しています。そのうち1回は必ず全員が見るようにして、放課後に意見を交わす時間を設けています。先生方は直

授業研究教科名	授業者	学級
6年 社会 3人の武将と天下統一	平成 年 月 日 (X) 2校時	
時刻	授業の主な内容	
9:40	T スリットに名前を書く。その後、石壁の跡が残った。今日は折いてこぼれ入る。	T 江戸時代のよう書きで残っていること。C 人がいっしょにいる。C 舟の舟をのり人きでいる。
	T 巻紙に名前を書きこく。	T 舟の舟をのり人きでいる。C 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。
	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。
9:43	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。
	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。
9:45	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。	T 舟の舟をのり人きでいる。舟の舟をのり人きでいる。

写真 向山校長が校長になってから取り続けている授業記録。教師、児童の発言と共に、授業時間も毎回記録。1年分を冊子にまとめ、教師全員に渡している

すべき点はきちんと指摘し、受ける側もめげずに耳を傾けています。「失敗してもよいから、自分なりの授業をしてみなさい」と強調していることの効果もあるのでしょうか。

**加藤** 若手の先生は厳しい意見に落ち込むこともありますが、校長がサポートすること大切にしています。私は研究授業は記録に取り、事後検討会で事実に基づいて話し合う材料にすると共に、自分なりに気付いた細かい点と意欲をかき立てるような励ましのコメントを書き添えて本人に渡しています。

**向山** 私も、校長になってからの11年間、研究授業は必ず記録し（写真）、事後検討会で活用すると共に、年度末に冊子にして配布し

てきました。授業を担当した先生へのお礼の意味もあります。

若手教師の育成では、いかに成功体験をさせるかも重要です。ある新採の先生が、社会科の授業のために近所の老舗パン店に協力を申し込みました。最初は断られたので、私も一緒に訪問して再度お願いするなどフォローしつつ、その先生自身が交渉して授業をつくり上げました。すると、子どもは教材が面白いから乗ってくるわけです。年1、2回でもよいので、そうした経験をするとうまい授業をしたいという思いが強まります。

**露木** 他校の授業をたくさん見ることも、教師は間違いなく伸びます。そうした学びに導くことも校長の役目でしょう。「校内の仕事だけをしっかりとやれ」という発想ではないと思います。

**向山** 確かに、校外で研鑽を積むことは必要です。今後は、新採が増え、首都圏を中心に平均で1〜2校につき1人くらい配属される状況が続きます。一つの町に小学校が20校あれば、同期が10人以上はいるわけです。その同期が夕食も兼ねて集まって実践を持ち寄れば有意義な研修になると思います。

私が若い頃も新採の教師が多く、仲間です。サークルを作って学び合いました。互いに手厳しい意見も交わしましたが、それが成長の大きなきっかけになったのは間違いありません。当時の仲間は、今でも良い友人です。

## 組織づくり、小中接続を考える視点

### 学校ぐるみで方針を統一

#### 「時間」へのコスト意識も重要

——教師同士の学び合いを支える組織のあり方や、その中で校長先生の役割を考える上で、留意すべきポイントは何でしょうか。

**向山** 一つは、「時間」への意識を高めることです。従来の学校組織は、「モノ」に対するコスト意識はありましたが、「時間」に対するコスト意識があまりありませんでした。例えば、本校で職員会議を1時間行くと、時給換算で約10万円がかかっていることになりました。会議で10万円分の価値を生み出さなければ、無駄に終わってしまうわけです。

**露木** 天笠先生が「協働」というキーワードを挙げられているように（P.16参照）、学級担任だけではなく、学校全体で一人ひとりの子どもを見ることが大切だと考えます。本校では、すべての教師が全校児童の名前を覚えて生活指導をしています。本校のように児童数が300人程度の規模であれば、十分に可能です。

特に、課題のある子どもの指導を担任だけに任せるのは負担が大き過ぎます。全員がかわる体制をつくることで、個々の負担が軽

減されるだけでなく、子ども自身にも良い効果がありますし、学校としてのまとまりも生まれます。

**加藤** 子どもの課題を全教師で共有することは、本校でも大事にしています。例えば、ある保護者からの電話に対し、どの教師も「存じ上げております」と同じ対応が出来れば、学校への信頼感は高まるでしょう。

**露木** 学校ぐるみで日常的な指導の方針を統一することも重要です。教科指導に比べ、学級経営を学ぶ機会は少なく、新採の先生の多くは自分の小学校時代を思い出して指導しています。例えば、名札や校帽の着用に関する指導が教師によって異なると、子どもの中に「あっちの先生の方がいいな」といった気持ちが生じて、子どもと教師の心にすき間が出来、学校の一体感が失われてしまいます。

**加藤** 教師の対応を統一することは、子どもに対してだけでなく、保護者や地域社会に対しても重要でしょう。それが学校組織を成立させる土台になると思います。

**向山** そのような考えは大切ですが、校長が細かい指導の方針にまでかわる必要はないと、私は思います。組織の構成員にはそれぞれの役割があり、各人がそれをまっとうする

## 現在と未来をつなぐ小学校教育



ことが強い組織をつくる条件です。そういう意味では、天笠先生が話されていた、すべての教師が経営感覚を持つ必要性については、必ずしも当てはまらないかもしれません。

### 小・中学校の段差がもたらす 良い面についても議論を

——小中接続には、どのように取り組んでいけばよいでしょうか。

**加藤** まずは、小学校と中学校の学校文化の溝を埋めることが大切です。無藤先生がお話しされていたように（P.18参照）、教師間の人的交流や課題の共有などから始めるとよいのではないのでしょうか。小中一貫教育を掲げる大阪市では、小学6年生が中学校の授業を見学したり、部活動の体験入部をしたりしています。中学校の教師も小学校で授業をするといった取り組みをしています。カリキュラムなどの接続へ向け、まずは互いの名前を覚え、人の交流を十分に進めることから取り組むのがよいと思います。

**向山** 小中は連携することがよいのは言うまでもありません。小学校と高校に挟まれた中学校の指導に難しさがあるのは確かですし、実際に中1ギャップも問題になっています。

ただ、段差があるからこそ、大人になるという自覚や気持ちの切り替えが出来る面にも目を向けるべきでしょう。戦後の日本は母性原理が強く、子どもが直面する障害をなくそうとする傾向が強かったと思います。一方、父性原理を持って突き放し、たくましく鍛えるという指導もあります。このテーマについて議論がほとんどない点は気になります。

### 問題行動の増加が懸念 校長のリーダーシップが重要

——最後に、今、特に重要と考えられていることをお話しただけですか。

**向山** 新課程では、国・社・算・理の教科書のページ数が平均で約3割増しとなるなど、学習内容は40年ぶりに大幅に増加しました。これにより力を付けていく子どもがいる半面、消化しきれずにストレスが増加し、反作用としての問題行動が起こることも懸念されます。まさに教育における戦後最大の課題に直面していると言えるでしょう。一生懸命に研修して授業力を高め、子どもと向き合う時間を増やす必要があると考えています。

**露木** これからの小学校教育を考えると、管理職の育成が喫緊の課題だと考えています。若手の先生も含めて、ステップアップのための選考試験を積極的に勧めるなど、教師の育成にも力を注いでいく考えです。

**加藤** 今ほど校長のリーダーシップや決断力、判断力が求められている時はないと感じます。この変革の渦中において、「温故知新」よりも「温故創新」という考え方を大切にしたい学校づくりを進めていくつもりです。そして、校内で十分に情報を共有して教師間の意思疎通を図ると共に、保護者や地域社会への情報発信も強めていきたいと考えています。

——本日はありがとうございました。





今回のテーマ

# 教師全員が主体的にかかわる工夫

授業研究には、一人ひとりの教師が主体的に取り組むことが欠かせない。授業づくりの議論が深まると共に、継続的な研究が可能となるからだ。しかし、毎年、メンバーが異なる中で、全員の意識を共有することは簡単ではない。今回は、さまざまな手立てにより全教師の主体性を引き出している事例を紹介する。

事例 神奈川県川崎市立橋小学校

## 研究会に「自分の視点」を持って参加

参観者も多くを学べる

「さん・かん・しゃカード」

川崎市立橋小学校は、「子ども一人一人を大切にしたい豊かな人間性を育む教育」を目指している。研究科は社会科、生活科、特別支援教育だが、石川健次校長は、全教科で一貫してすべての子どもを生かした授業づくりを目標にしていると話す。

「学級には多様な子どもがいます。目の前の一人ひとりの子どもの個性が生かされる、互いに学び合い、認め合える教育を目指しています」

研究主任の鵜木朋和先生は、授業

研究における特徴の一つとして、

日々の授業を重視することを挙げる。

「学級づくりと共に、普段の授業づくりでも目指す教育を意識することが大切だと考えています。そのため、授業研究は普段の授業を見合っている感覚で行っています。当日の授業の様子にとどまらず、『普段はどうなの?』ということもよく話し合います」

特徴の二つめは、どの教師も主体的に授業改善に取り組むために、次の手立てを取っていることだ。

■全員が年間個別研究テーマを設定

授業改善への意識が明確になる。

年度末には振り返りレポートも書く

■全員が年2回、研究授業を実施

1回目の課題を反映し、2回目の授業を改善すると共に、本当に改善できたのかを確認できる

■授業研究での「さん・かん・しゃカード」の活用(図1)

個々の研究テーマの視点も記入することで、都度の授業研究の学びが増す。協議会での議論も活発になる

■意識共有の場を多く設ける(図2)

授業づくりや、研究の考え方・方を進めていきたいと思えます」

法をこまめに伝えられ、新任者や異動者も授業研究に同じ意識で臨める

2010年度は、10月頃に、『目の前の子どもと共に』というキーワードが教師の間から自然に出てきた。この頃を境に、多くの教師が子どもの日々の変化を実感し、学校全体として主体的な雰囲気が高まってきたと教務主任の松岡広記先生は話す。

「多様な手立ての積み重ねから学校全体で取り組む雰囲気生まれると感じます。今後もその年ごとの先生方と共に、全員が参加できる研究を進めていきたいと思えます」

第7回 授業研究会 第 学年 平成22年 9月 22日(水)

年 組 級	授業の視点
ゆさぶりの資料を提示することで、資料②以降の子どもの視点を広げることができていたか。	
年 組 級 名前( )	年 組 級 名前( )
授業を見る上での自分の視点 ゆさぶりの資料の答えとどう考えたか	授業を見る上での自分の視点 教師の答え
大分保釈の言葉は、子どもの答えと深める ぎんぎん(と)と(と)と。鉄道の資料②の提示	鉄道=速く便利と鉄道について 考えていた子どもの資料②の提示
地図は読み取りが難しいのか?工業地 帯と特がつけるのは、展開図と思われ	0の国にどうの鉄道という視点には か。そのように思いは、失念の意
子どもたちは、鉄道と工場はつながっていた。	は何かという質問がなかったと思
年 組 級 名前( )	年 組 級 名前( )
授業を見る上での自分の視点 話し合い	授業を見る上での自分の視点 話し合い
子どもたちから意見が出たのは、10分。出 発点は、グループで話し合いの時間を とって。先生も言いやすくなっていたと 思っています。発表も話し合いも、10分 の話し合いが「0分」とか「1分」とか、自分 意見を入れておいたと思います。課題は解 決できなかったが、本時目標の達成に向け たい。授業と発表させたい。また子どもは ついていけるか、と思いました。	資料②のあたり 2人の発表の あと、1分ばかりの話し合い。資料②の地 図を提示したのは子どもたちの思考を 促すのには有効な気がする。できれば さらに長く発表もほしかったらいいな
年 組 級 名前( )	年 組 級 名前( )
授業を見る上での自分の視点 グループ活動	授業を見る上での自分の視点 学習ルールについて
意見が早く出たのは、10分。グループ 活動にして発表する場面が何度かあり	5分ほどの参観できていませんが、 話し合いの後は、10分は意見を発表す る場面でした。一人が話し出すと 話し手の方を向いて「何?」「聞か れている子どももたくさんいて、討論

## 図1 「さん・かん・しゃカード」

授業を見る視点を明確にすることで、活発な授業研究  
にするためのカード。「参」加意識・「感」謝の気持ちを持  
って、「社」会科の研究を行うという意味で名付けられ  
た。橘小学校では38学級の全学級担任が年2回研究  
授業を行うため、1回の授業研究に4~5学級の授業を  
同時に行う。全授業を少しずつ参観し、意見を書く形で  
進めている

### カードの活用方法

- 授業前に、参観者が意見を記入する「さん・かん・しゃ  
カード」を配布。カードにはあらかじめ、「授業者  
が見てほしい視点」(A)が書かれている
- 参観者は、自身の研究テーマに沿って、「授業を見  
る上での自分の視点」(B)を記入。授業者の視点、  
自分の視点の両方を踏まえて、意見を書き込む
- 授業後すぐに全員分を集め、授業ごとにまとめて印刷。  
全員の意見が集約されているため、参観者の関心の高  
い点や、意見が分かれている点を中心に議論するなど、  
限られた時間でも密度の高い協議会となる

## 図2 意識共有の場の 設定

授業公開(随時)	研究推進委員が率先して自身の授業を公開。目指す授業像を具 体的に伝える
研究部会(毎月)	社会科、生活科、特別支援教育それぞれに設けられた「授業研 究部」、「カリキュラム編成部」、「資料部」の三つの研究部会の いずれかに、教師全員が所属し、研究を進める
新任者・異動者向けの 研修会(年3~4回)	テーマは、「指導案の形式の意図や作成方法」など。各研究部会 などがテーマや研修内容を決めて実施する
自由参加の勉強会 (年4~5回)	テーマは「板書」「ノート」など。研究主任が開催し、テーマご とにさまざまな教師がホスト役を務める

School Data

### 神奈川県川崎市立橘小学校



◎1914(大正3)年開校。  
市内有数の大規模校だが、  
子ども一人ひとりの個性  
を大切に授業づくりを  
目標に研究を続けている。  
2009年度、全国小学校社  
会科研究協議会神奈川大会  
の会場校となった。

校長 石川健次先生  
児童数 1109人 学級数 38学級(うち特別支援学級7) 教員数 47人  
所在地 〒213-0022 神奈川県川崎市高津区千年1024  
TEL 044-766-4503  
URL <http://www.keins.city.kawasaki.jp/2/ke205501/>  
公開研究会 未定



川崎市立橘小学校研究主任・6学年担任  
鵜木朋和  
Unoki Tomokuni

「研究の過程には困難もあるが、やり遂  
げることで、子どもも教師も得られる  
ものが必ずあると信じ、伝えている」



川崎市立橘小学校教務主任・研究推進委員長  
松岡広記  
Matsunaka Hiroki

「互いに磨き合える研究とするため、  
多くの先生方が少し背伸びをして届く  
ような課題設定を心掛けている」



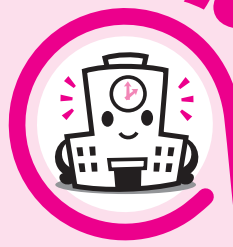
川崎市立橘小学校校長  
石川健次  
Ishikawa Kenji

「普段から出来る限り多くの授業を見  
て、良い点を三つ、直した方が良い点  
を二つ見付け、先生方に伝えている」

授業研究に学校全体で主体的に  
取り組むために「心掛けていこう」

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のもので

# つながる



## 学校と家庭の学び

# 人と向き合う姿勢を育む 「親子会議」

茨城県小美玉市立堅倉小学校

小美玉市立堅倉小学校では、学校が設けたテーマについて親子で話し合う「親子会議」に年6回取り組んでいる。子どもにも保護者にも負担を感じさせないような工夫を重ねた結果、開始からわずか1年弱で、親子のコミュニケーションが増え、生活習慣にも改善が見られるようになったという。

### 年6回の「親子会議」で 親子の本音での会話を促す

茨城県の中央部に位置する小美玉市立堅倉小学校は、「教師の指導力向上」「子どもの生活習慣改善」「友だちを思いやる心の育成」を柱として、学びに向かう集団づくりに取り組んでいる。

その一環として、2010年度に「親子会議」を始めた。これは各学期に2回ずつ、学校が設けたテーマについて家庭で話し合ってもらおう取り組みだ。話し合いの内容と感想を

親子で「親子会議シート」(図)にまとめて担任に提出し、担任はコメントを書いて返却する。返却後は、話し合いの度に振り返れるよう、連絡帳に貼って保存する。また、担任は控えをとり、管理職とも共有する。細谷光太郎校長は、「親子会議」のねらいを次のように説明する。

「背景として、子どもが親と向き合う機会が少なく、保護者が親としての思いを伝えられていないこと、また、保護者アンケートの結果などから、学校の取り組みが家庭に十分に伝わっていないがありました。

本校が目指しているのは、他者の気持ちを理解し、気遣おうとする児童の育成です。それに向けて、まずは子どもたちにとって最も身近な存在である保護者の気持ちを理解し、思いやる心を育みたいと考えました。話し合う場を設けることで、親子が向き合い、更には学校への理解を深めてもらえたらと考えたのです」

「親子会議シート」の感想からは保護者と子どもが真剣に向き合う様子がうかがえる。「家族が改まって会議をするのは緊張したが、みんな

た」(子ども)、「普段、なかなか話せなかったことを親子3人で話せたので、とても良い会議でした」(保護者)といった具合だ。

菊池泰三教頭は、家庭に潜在していたニーズに応えられたのではないかと話す。

「子どもは『自分の頑張りや努力を親に認めてほしい』と頑張ってほしい、保護者は『子どもと話したいけれど、面と向かうと話づらい話題がある』と思っていたはずです。『親子会議』は、親子が本音で話すきっかけとなったようです」



## 親子会議のテーマ一覧

- 第1回 我が家のルール再点検
- 第2回 聞いてみよう ぼくわたしの 生まれたころのこと
- 第3回 我が家の運動会
- 第4回 守れてますか 我が家のルール
- 第5回 親子で挑戦! 家庭学習
- 第6回 来年度の抱負!

### 「親子会議シート」に書かれた感想の例

- ◎「今までなにげなく約束していたことを、改めて家族で話し合くと、みんなの認識が確認できて良いと思った」(第1回/保護者)
- ◎「当時のことを思い出し、懐かしく、こんなに成長したんだと実感した。とても心温まる時間になった」(第2回/保護者)
- ◎「いちばん頑張ったところを褒めてもらい、とてもうれしかった」(第3回/子ども)

## 親子会議シート

**堅倉小親子会議シート**  
(第3回)  
【配布日 9月15日(水) 提出日 9月21日(水)】

【はもさ会議】 ※ 第1回で決めた我が家のオリジナル会議名を記入しよう。

学年	組	名前
※ 兄弟姉妹がいても、1人1枚作成して、担任の先生に届けます。		
◎ 2学期最初の親子会議 第3回のテーマは <b>我が家の運動会</b> 練習や準備のことで 運動会当日のことで		
【ぼくやわたしのこと】 ・ぼく、わたしが一番頑張ったこと、うれしかったこと、くやしかったこと… 「ドラゴンボール→しめてみんなが、たかたかしたたこと!」 ・ぼく、わたしの感じた 友だち(同じクラス 他の学年)の すごいなあ! ・みんなが たかたかをし、且かかあって一致団結した事。		
【お家の方から一言…お家の方が見つけた我が子のがんばり事】 ・委員の仕事と責任とも、頑張ってやりました。 ・皆で協力あって、フラスの団結力がすく良かったです。		
◎ 第3回親子会議の感想 ・ビデオを見ながら、話をし、むくもりあがた! ・心に残る運動会だ。達成感あつた。 ・みんなが、協力しあうから、素晴らしい運動会に仕上がった。		
※お子さんの読めない漢字は、保護者の方が読んであげてください。 ※1年生など、お子さんがまだ文字が十分に書けないときは、保護者の方が書いてあげてください。		

「親子会議シート」は全学年共通。学年によっては未習漢字も使われているが、あえて仮名書きにしたり、振り仮名を付けたりしない。子どもが読めない漢字を保護者が教えてあげることで、会話を弾ませるきっかけにしてほしいというねらいだ。また、同じく会話のきっかけとなるように、「頑張ったこと」「友だちに対して感じたこと」など、テーマごとに会話の切り口の例を示している



「親子会議シート」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます

<http://benesse.jp/berd/> →情報誌ライブラリ(小学校向け)

## 保護者の負担を減らし「親子会議」への参加意欲を向上

「親子会議シート」の提出率は、第1回から全学年平均で90%を超え、第5回にはほぼ100%に達した。それには、同校が次のような工夫を重ねたことが大きい。

### 話しやすいテーマを設定

テーマは、管理職を含めた教師全員で案を出し合って決める。ポイントとは、どの家庭でも気軽に話し合える話題であることだ。

「学習習慣や生活習慣の改善など、私たち教師が取り上げたい話題ばかりでは、子どもも保護者も気負ってしまい、楽しい会話にならないでしょう。そのため、学校のことだけに

## 茨城県小美玉市立堅倉小学校

◎1873(明治6)年開校。教育目標を「確かな学力と豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる児童を育てる」とし、その一環として、2010年度、「親子会議」を始めた。

校長 細谷光太郎先生  
児童数 354人  
学級数 14学級(うち特別支援学級2)  
所在地 〒319-0106  
茨城県小美玉市堅倉 1698-6

TEL 0299-48-0029  
URL <http://www.city.omitama.ibaraki.jp/katakura-e/>



小美玉市立堅倉小学校校長

### 細谷光太郎

Hosoya Kotaro

「子ども一人ひとりに対して全力でぶつかる愛情を持った教師集団でありたい」



小美玉市立堅倉小学校

### 菊池泰三

Kikuchi Taizo

教頭  
「目の前の子どもで勝負」



小美玉市立堅倉小学校

### 鈴木謙二

Suzuki Kenji

教務主任  
「子どもの変化を後押しできる教師でありたい」

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

こだわらずにテーマの幅を広げようと心掛けています」(菊池教頭)

### ■無理のない日程

「親子会議シート」の配付から提出までの期間は、必ず日曜日を挟んで4日以上設けている。各家庭は、期間内で話し合いの日を任意に選ぶ。

「どの家庭でもじっくり話し合い、『親子会議シート』も親子一緒に記入してもらえよう、日程にゆとりを持たせています。共働きの家庭でも日曜日は時間をつくりやすいだろうと考えました。また年間の実施回数も、家庭に負担を感じさせないよう配慮して決めました」(菊池教頭)

### ■保護者への還元

「親子会議シート」に書かれた話し合いの内容・感想は、他の保護者の参考になりそうなものを選び、回が終わるごとにプリントにして全家庭に配布している。「学年だより」で紹介する学年もある。

「学校が話し合いの結果をどう受け止めているかを、きちんと家庭に報告しています。そうしてこそ、家庭と学校のつながりは深まるのです。私も、多くの人に知ってほしい親子のコメントは保護者会などで伝えたり、毎月発行する『学校だより』に

載せたりしています」(細谷校長)

### 会話を通って

### 親子が互いに向き合えるように

同校が「親子会議」を始めてわずか1年足らずだが、成果は子どもの様子に徐々に現れている。教務主任の鈴木謙二先生は、子どもと話していることが分かると話す。

「子どもたちからお母さんだけでなく、お父さんの話を聞く回数が以前よりずっと多くなりました。『一緒にキャッチボールをした』など、楽しそうに教えてくれます。お父さんには『学校でこんなことをした』と話しているようです」

保護者からは、「子どもの成長を実感している」という声がどの回にも寄せられている。

「『親子会議シート』の感想を読むと、保護者が子どもの多様な側面に向けてくれていていると感じます。『人の話を落ち着いて聞く』『目をみて話す』など、子どものちよつとしたそぶりの変化を見取って褒めてあげているようです。子どもは『褒められてうれしい』『もっと頑張ろう』と思うでしょう。学習をはじめ、子

どもの生活すべてに良い影響があると思います」(鈴木先生)

生活習慣が改善する兆しも見られる。月初めの一週間の生活を記録する「振り返りカード」に「朝、自分で起きられた」と答える子どもが増えているという。

「9月には全校で38%でしたが、12月には50%を超えました。第1回と第4回の『親子会議』でテーマとした『我が家のルール』では『毎朝、一人で起きる』というルールを設ける家庭が目立っていました。親子で話し合って決めたためか、きちんと守れているようです」(鈴木先生)

細谷校長は、今後について次のように話す。

「保護者や友だちなど、自分の周りの人たちとしっかり向き合えるようになってはじめて、互いに高め合う関係や全員で学びに向かう姿勢が生まれると考えています。『親子会議』によって、子どもたちには少しずつ変化が現れてきました。そうした変化を一つひとつ積み重ねることは、遠回りのようですが確実に、学力向上へとつながります。今後も保護者の協力を得ながら、焦らずに続けていきたいと思っています」

## 授業でご活用いただける4年生・6年生向けの無料教材の予約受付中!

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2010年度は、のべ約11,000校から約187万冊ものお申し込みをいただきました。

2011年度は、①小学4年生の児童向けに、授業で使える「4年生夏休みわくわく計画表」と「わくわく夏休みひみつ BOOK」、②小学6年生の児童向けに、キャリア教育の授業に役立つ副教材を無料でご提供いたします。ただ今、予約受付中です。詳しくは巻末のカラーページのご案内、または本誌同送のチラシをご覧ください。ぜひ貴校の教育活動にお役立て下さい。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

申込締め切り

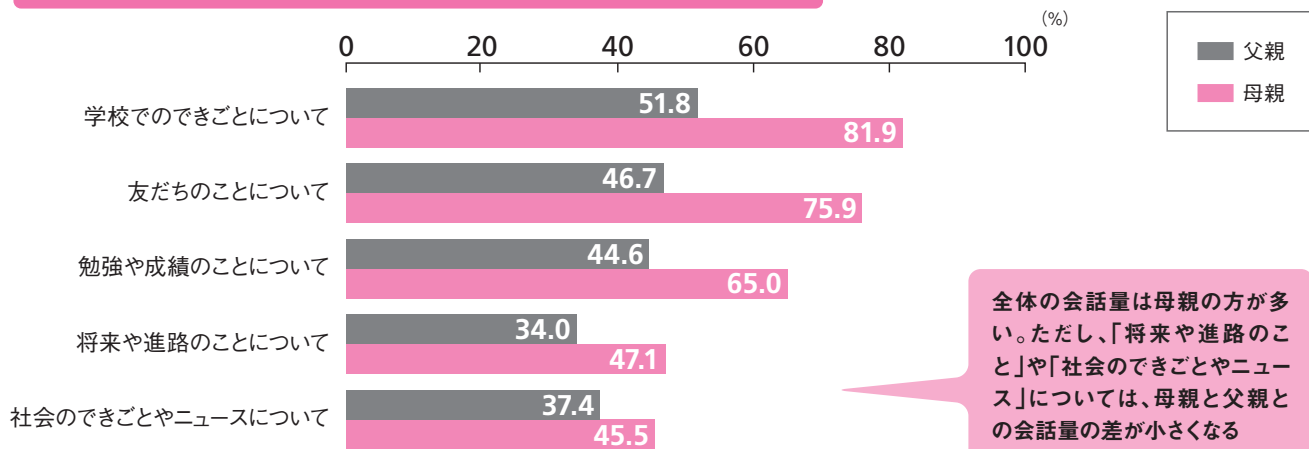
2011年

7/7 木



## 保護者と子どもの会話の内容は、相手によって変化する

保護者との会話の内容(小4~小6生)



全体の会話量は母親の方が多い。ただし、「将来や進路のこと」や「社会のできごとやニュース」については、母親と父親との会話量の差が小さくなる

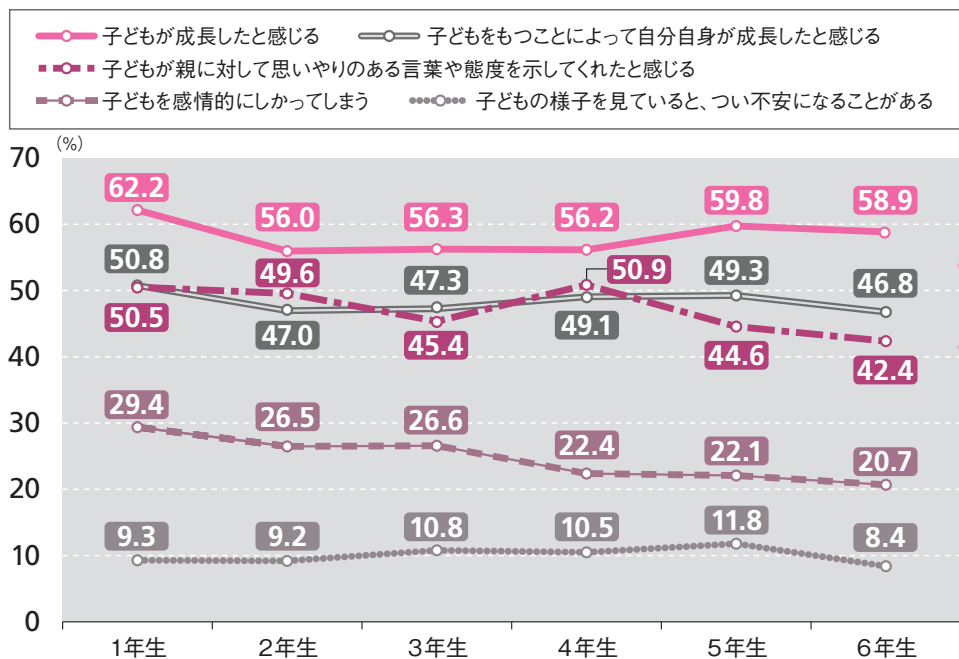
注) 数値は、「よく話をする」と「ときどき話をする」を合計した割合

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」

調査時期は2009年8~10月、調査対象は全国の小学4年生~高校2年生(うち小学生は3,561人)、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

## 母親の約6割が、子どもの成長を感じている

子育ての場面における母親の意識の変化(小1~小6生)



子どもの成長を感じる割合は60%程度、自分自身の成長を感じる割合は50%程度で、学年段階による大きな変化はない

子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる割合は、5・6年生で下がる傾向が見られる

注) 数値は、「よくある」「時々ある」「あまりない」「ぜんぜんない」のうち、「よくある」と答えた人の割合

出典: Benesse教育研究開発センター「第3回子育て生活基本調査」

調査時期は2007年9月、調査対象は首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の小学1年生~中学3年生の子どもをもつ保護者7,282人(うち小学生の保護者は3,625人)、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!  
<http://benesse.jp/berd/>  
※「調査・研究データ」コーナーをご覧ください



## 2010 Vol.4 特集「授業づくりと共に深める家庭学習」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*「VIEW21」小学版のバックナンバーは「Benesse教育研究開発センター」ウェブサイト(<http://benesse.jp/berd/>)でご覧いただけます。

◎帝京大教職大学院の矢野英明客員准教授と平塚市立神田小学校の田中千勢子校長との「課題整理と提案」では、新学習指導要領における家庭学習が大変分かりやすく解説されていました。資料の図も効果的で、学校説明会等で活用させていただきました。

[神奈川県 / O小学校 / K・S]

◎平塚市立神田小学校が取り組まれている「教師全員で家庭学習の在り方を議論」することは、新しいことではありませんが、みんなできちんと課題に向き合うという学校経営の活力を感じました。家庭学習についての検討事項について、具体的な検証結果が掲載されていると、更に説得力が増すと思いました。

[岐阜県 / K小学校 / K・N]

◎登米市立北方小学校の「登米っ子学習」の取り組みが興味深かったです。この取り組みで「学び合い」の時間を確保、充実させ、「活用する力」につながっている点が参考になりました。どの取り組みにも言えることですが、保護者への説明、理解が重要であると感じます。

[東京都 / S小学校 / T・N]

◎本校は全校児童100人ほどの小規模校のため、授業や放課後での個別指導が出来ます。学校規模の面から、「授業と家庭学習のサイクル化」「個々の課題を捉えた家庭学習(補習)」が可能であり、登米市立北方小学校、墨田区立第三吾嬬小学校の実践が大変参考になりました。

[長野県 / M小学校 / S・K]

◎家庭学習の時間や内容について悩んでいたのですが、三次市立三和小学校の記事にある、ノートの広め方は良いと思いました。学級と共に、学校全体で広めることが大切だと思います。[滋賀県 / M小学校 / K・T]

◎家庭学習は本校の課題でもあるので、今回の特集は大変参考になりました。特に、三次市立三和小学校の実践は、授業の単元構成とつなげて考えられており、とても良かったです。[大阪府 / N小学校 / F・N]

◎学力向上の手立ての一つとして、家庭学習が必要であることは確かですが、なかなか効果が上がりません。継続の過程で必ず現れる中だるみ対策として、京丹後市立峰山小学校の「スリーアップ作戦」のように集中してチェックする手法は参考になりました。

[島根県 / K小学校 / S・M]

◎京丹後市立峰山小学校の「スリーアップ作戦」が大変参考になりました。授業力のアップと家庭学習の習慣づくりは本校にも取り入れていきたいです。特に、個々の子どもの学力差を意識した家庭学習の与え方は、とても大切だと思います。[愛知県 / E小学校 / I・K]

◎墨田区立第三吾嬬小学校が実践されている「連絡帳も家庭学習指導に活用する」ことは、子どもへの意欲づけ、保護者の方への協力依頼にもつながります。地味ではありますが、大切なことだと思います。

[埼玉県 / H小学校 / K・K]

## お知らせ

文部科学省が**震災地の学校と提供者を結ぶ**マッチングサイトを開設しています

「東日本大震災 子どもの学び支援ポータルサイト」<http://manabishien.mext.go.jp/>

## 編集後記

これからの10年間を見据えた新教育課程が全面実施となりました。今後の小学校教育に必要なことを考える取材を通じ、先生方の素晴らしい教育によって、世界に誇れる日本がつけられてきたことを改めて実感しています。今年度は、その良さを引き継ぎながら、今後の未知の世界で活躍できる子どもを育む教育へ、更なる進化が本格化する年だと思います。「VIEW21」では、未来を見据えつつ、未来へつながる日々の授業づくりについて考えてまいります。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。(青木)

VIEW21 小学版 2011 Vol.1

2011年4月26日発行 / 通巻第28号

発行人 新井健一  
 編集人 原 茂  
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
 Benesse教育研究開発センター  
 (株)ビーヴィオコーポレーション  
 (有)ペンダコ  
 印刷製本 二宮良太  
 編集協力 荒川潤、石田理恵、川上一生、  
 執筆協力 坂井公秋  
 撮影協力 浅沼リカ、幸剛  
 イラスト協力

## ◎お問い合わせ先

VIEW21編集部

電話 **03-5320-1287**

〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1  
 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2011